

資料 2

ヒアリング調査（修了生の活躍事例）

No. 1	出身校：C	科名：生産機械科	卒業年度：昭和60年度
	性別：男	年齢：36歳	現住所：宮城県
	業種：輸送用機械組立製造		

いま、どのような仕事をされていますか

また、どんな仕事を経験されましたか

現在、私が従事する仕事は、お客様より依頼がある「研究テーマ」について開発や試作を行い、報告（提案）するという、社内でも異色の仕事を行っています。

入社当時は、新幹線の車両部品の修繕を約1年間経験しました。その後、車体に対して直接部品等の取付作業（ぎ装作業と言います）を行いました。次には、車両関係の部品修繕に使用する材料担当の仕事を経験して、現在の職務に至っています。

仕事上、どんな壁にぶつかったことがありますか

また、どのようにその壁を切り抜けましたか

「新しい物を創造する」という仕事の性質上、ほとんど毎日壁に当たっています。技術的には既成技術を使用しているのですが、情報量が絶対的に乏しいため、設計等に行き詰まってしまう。

最近では、インターネットの普及等で随分楽になりましたが、それでも解決しない場合は部内のミーティングで相談したりします。また、専門的な実験等が必要な場合は、〇〇県の産業総合技術センター等に依頼して行うこともあります。

〇〇〇〇については誰にも負けない

将来どんな仕事上の目標をお持ちですか

現在依頼される仕事の内容は分野が固定されていないので幅広い知識が必要です。しかしながら今後仕事を続けていく上で「〇〇〇〇については誰にも負けない」という1つ際立った知識を習得したいと思っています。現在、具体的には「これ」というものはありませんが、何となく方向性は固まってきました。

今までどのような研修を受けてきましたか、また、なにを学びたいですか

仕事の性格上、社外技術系のセミナー等を受講してきました。特に、私としては機械系出身なので電気系のセミナーについては積極的に受講するように心がけています。

また、社内での研修としては、安全関係を主に受講してきました。私たち鉄道業界での特異的な事故として「感電・触車・墜落」が3大事故と言われていますが、この点について重点的に研修を受けています。

現在取り組んでいるテーマの中には手作業の自動化が多々あります。その際、切っても切れないのが電気を使った制御です。これらについて、今後は勉強していきたいと考えています。

短大生活で最も思い出深いものは何でしたか

現在もカリキュラムにあると伺いましたが、夏、冬の長期休み前の集中実習でした。私は生産機械科という科の出身でしたので、機械の操作等、不安全な操作を行って当時の先生に怒鳴られたことを覚えています。

「卒業したら〇〇〇の仕事をしたい」という目標を持って勉強することが大切

短大に対するご意見、後輩たちへのアドバイスをお願いします

我々が在学中の時よりも遙かにいい環境で勉強ができる今の方々を本当に羨ましく思います。短大時代は、卒業しても取りあえず一通りの作業ができますが、逆に言うと「これができる」とか「これについては誰にも

負けない」という得意分野がなく何となく自信が無いという感じでした。

非常に抽象的な言い方ですが、具体的には「卒業したら〇〇〇の仕事をしたい」という目標を持って勉強することが大切だと思います。現在はそれを可能にできる優秀な先生方とすばらしい設備が整っているのですから。

No. 2	出身校：D	科名：生産機械科	卒業年度：昭和 61 年度
	性別：男	年令：37 歳	現住所：青森県
	業種：精密電子部品製造		従業員数：500 名

いま、どのような仕事をされていますか

会社はエレクトロニクスの分野に不可欠なコネクタ部品、基盤ユニット、光ファイバ接続部品などを生産していますが、私はコネクタ等を作るためのモールド金型を作る部署で研削加工の仕事をしています。金型部品は外注で荒加工し、熱処理されたものを平面研削盤、成形研削盤を使って仕上げていきます。

実用新案を取得しました

今まで、どんな仕事を経験されましたか

入社して半月ぐらい社内研修で金型の組み付けを行い、金型の勉強をしました。金型の構造を知ることによって、個々の部品の機能を理解することができました。その後現在の部署で研削作業の仕事を現在まで行っています。社内では作業におけるスキルマップがあり、研削盤も多種類あり一通りできるようになりました。また、技能検定も挑戦し取得しました。社内のグループ活動で研削砥石の面を傾斜面に整形する作業を容易にすることができ、かつ、外縁部を円弧状に整形することができるドレッサ装置を作り実用新案を取得しました。

今までのやり方では通用しなくなってきました

仕事上、苦勞したことがありますか

また、どのようにその壁を切り抜けましたか

はじめは図面を十分理解できなかったことによる加工ミスが多かったです。最近では金型部品自体が以前に比べるとかなり高精度、公差的にもかなり厳しくなっていますし、物もすごく小さくなっています。薄いものを削らなければならない、細かい溝を入れなければならない、今までのやり方では通用しなくなっています。それにどう対応していくかというような加工技術に苦勞しています。

解決方法として、同業の会社を見学させてもらったり、また、よそのやっている技術を教えてもらったりし、それを自分でアレンジして使うようにしています。それから研削作業では削る砥石も重要で、砥石メーカーに相談したりします。

将来、どんな目標をお持ちですか

学生の中から機械実習が多く、社会人になってもずっと機械をやってきました。機械加工は奥が深く難しいですが、職人と呼ばれるように、自分の技能を今よりもっと高めてゆきたいと思っています。

これからも挑戦してゆきたいです

仕事に関する技術・技能・知識はどのようにして習得されましたか

部署単位、課単位で必要な技能、基本的には機械操作、安全作業、保守点検といったものを OJT で習得しています。また、レベル的な評価、自分の実力というのは技能検定など公的資格を利用しています。これからも挑戦してゆきたいです。

短大での思い出は何でしたか

短大時代は実習が多くあったので、今の職場に就いてその経験が生かされています。学生生活の中でも充実した2年間でした。

同窓会会長やっていますが、活発的な活動はあまり行っていません。

No. 3	出身校：F	科名：生産機械科	卒業年度：平成4年度
	性別：男	年齢：29才	
	業種：電気機器製造		従業員数：1050名

設計の仕事を頑張りたいです**ミニチュアベアリングやクラッチを設計しています****あなたは、どんな仕事をしていますか**

入社以来ベアリング部で設計の仕事をしています。設計の部署にいますが自分で工作機械を操作して試作もします。具体的な仕事は、ベアリングとワンウェイクラッチなどの設計です。取り扱っているベアリングはミニチュアベアリングで、一般の人には目に付かない OA 機器、情報機器、医療機器、光学機器などに組み込まれているものです。市販のベアリングとは違い、ほとんど特注品です。種類はいろいろありますが内径3mm、外形10mm程度と小さくかつ形も内輪が突き出ている外輪に溝が切ってあったりします。またワンウェイクラッチとは、一方向は空転し、その反対方向はかみ合う機能を持っているもので、みなさんが良く利用される ATM でお札を数えたり通帳を出し入れするのに使われたり、電車に使う切符の自動券売機送りやプリンタ・複写機の紙送りなどに使われているものです。

お客さんからこのようなものを作って欲しいと要望があると、まず今までの自社製品の中から流用できそうな物を探し出し、その図面が使えると判断してから、要望にあわせて設計します。設計では、バネの剪断応力などの強度計算も行い図面を仕上げます。

仕事はおもしろいので夜遅くなることもたびたびですが、同僚も同じように頑張っているのです、さほど苦にはなりません。

新入社員には図面の書き方や工作法などを教えています。

お客さんから技術的にムリな要求がでることもあります**今までの仕事の上で、どんな壁にぶつかりましたか****どのようにその壁を切り抜けましたか**

客先から、合成樹脂で作る外形約30mmの円形テープ巻き取りリールの肉厚を、図面よりもっと薄くして欲しいと要求されました。今までは厚さ0.8mmとしていたので、今回もその厚さで図面を書いたところ、0.5mmにして欲しいというのです。取り付ける場所の関係からぜひ薄くしたいと言われました。合成樹脂の加工には

旋盤の総型バイトを使いますが、0.8mmより薄くすると製品の平面度がでなくなる恐れがありました。ずいぶん時間をかけていろいろ試してみたのですが、薄くすると製品の品質を保証できないとの結論に達しました。お客さんが技術屋さんであっても加工のことはあまり知りません。このときは加工方法を詳しく説明し、薄くするには技術的に無理があると話しました。お客さんが私の話を理解してくれた時には本当にホットしました。

又試作品を客先に納入し、実際に試運転をしてもらいOKがでると量産に入ります。不具合部分はその都度お客さんに指摘してもらい、図面に反映し再度試作品を作ります。量産に入った部品のなかで、M3の取り付けボルトの破損が続いたことがあります。私も現場に飛んでいって調べました。するとどうもボルトの形が図面と違うのです。ボルトにはねじが切っており、ねじの部分には逃げが必要ですが、その逃げの形が図面と微妙に違うと気づきました。私はこれだと思いました。逃げの深さが深いのです。これではボルトの強度は不足します。製造部署では作りやすくするために形を変えたとのことでしたので、図面通りのボルトにするように指摘してから、ボルト破損事故は起きておりません。

私の部署では、一つの部品を始めから終わりまで一人で担当するので、他の人が詳細まではなかなか理解できないのが実状です。ですから困ったときには、とにかく自分で調べます。会社には多くの資料があり、それを一つ一つ当たり、何とか解決方法を見つけました。私はベアリングの仕事を9年間やっていますが、特に外注さんの製造方法はつかみ切れておらず、この物が実際に作れるのかどうかで迷うこともあります。こうしたときは上司に相談します。上司はたいへん適切にアドバイスをしてくれますので助かります。

品質の高い図面を書きたい

あなたの仕事に対するお考えをお聞かせ下さい

設計者の仕事として私がかつても大切だと思うことは、図面は現場に対しての指示書であるということです。この図面で物を作れば、信頼のおける製品が必ずできるという、品質の高い図面を書きたいと思っています。設計とは上流側の仕事ですから、その指示が間違えては良い製品はできません。設計段階で問題の絞り込みを行い、クレームの無い製品を作りたいと考えています。

会社の中では良い仕事をしても誉められることはめったにありません。仕事は良くできて当たり前ですから、でも客先から、〇〇さんこの製品はしっかりしていて良いですね、と言われるとたいへん嬉しいし励みにもなります。

仕事に対しての私のポリシーは、とにかく客先の要求に応えたいということです。客先の提案はまず否定しないということです。提案を受けて技術的検討をし、できる限りその提案を生かした製品となる設計をするようにこころがけています。

在学中は卒業研究に力を入れました

最後に、簡単で結構ですから、後輩達へのアドバイスをお願いします

会社に入ると職場で上司から指示された仕事をするようになります。自分でこの仕事をやりたいと思っても、それは難しいです。そうした意味では学校での卒業研究は私にとってたいへん役に立ちました。卒業研究では先生からテーマを与えられて、そのテーマを自由に研究できました。分からないところは自分で調べ図面を書き加工し組み立て、実験に入りました。実験がうまくいかないと作り直しです。こうした勉強が会社に入ってからたいへん役に立ちました。

ですから現在大学校で学んでいる学生さんも、ぜひ卒業研究には力を入れて欲しいと思います。

№. 4	出身校：H	科名：生産機械科	卒業年度：昭和55年度
	性別：男	年齢：43歳	現住所：富山県
	業種：機械製造業		従業員数：700名

いま、どのような仕事をされていますか

また、どんな仕事を経験されましたか

小型マシニングセンタ（BT30、BT20）の設計、および、その周辺機器の設計です。

入社後5年間横浜にて営業に所属した後、製造部門にて部品の製造と生産技術に従事しました。そして現在の設計業務へと移りました。

商品のアイデア、仕事の進め方に苦しんでいます

仕事上、どんな壁にぶつかったことがありますか

また、どのようにその壁を切り抜けましたか

いくつかの壁にぶつかっておりますが、現在は安く、早く、利益の確保されたものを作るために商品のアイデア、仕事の進め方に苦しんでいます。

日々、模索中です。

将来どんな夢をお持ちですか

個々の夢は、多くありますが、最終的には、お客様に喜んでいただける機械を作るのが夢です。

仕事に関する技術・技能・知識はどのようにして習得されましたか

通信教育による各分野の基礎やマネジメントなどの教養を学んでいます。また各種展示会の見学による同業者の動向調査を行っています。上司、先輩からのOJTによる指導も受けています。今後、人の育て方について学びたいと思います。

後輩には、今までの経験をOJTにて指導しています。

短大生活で最も思い出深いものはなんでしたか

学業よりも友人と過ごした時間が印象的です。私の活動範囲がそれまでより大きく広りました。中でも、初めて入った居酒屋で酒を飲んで楽しく過ごしたことなどが思い出されます。

№. 5	出身校：S	科名：生産機械科	卒業年度：平成2年度
	性別：男	年齢：34歳	現住所：香川県
	業種：変圧器・金型製造		従業員数：95名

顧客先や外注先との交渉、現場との納期調整などが難しいです

いま、どのような仕事をされていますか

また、どんな仕事を経験されましたか

1年前から機械部品・装置関係の営業技術をしています。会社の方針で営業面を強化するようになり、会社の命令で営業に変わりました。今までは工場内だけの仕事であったのが、全く違う仕事なので毎日が勉強です。特に、顧客先や外注先との交渉、現場との納期調整などが難しいです。しかし少しずつ実績が上がってきているので会社からは期待されている。

入社以来ずっと工場で機械加工(NC,MC)関係の仕事をしていました。営業になって相手が大きく変わり、機械から人になりました。

短大の先生と協同で取り組み、顧客から大変喜んでもらえました

仕事上、どんな壁にぶつかったことがありますか

また、どのようにその壁を切り抜けましたか

はじめは馴れるまで戸惑いがありました。特に電気や制御の話がよくわかりませんでした。それに顧客の要望に答えられるかどうかの、判断が難しいです。価格・納期面で仕事を断らなければいけないときが一番つらいです。

上司や先輩と相談しながら切り抜けています。セラミック加工の仕事があったときに、セラミックの加工には高価な工具が必要でコスト的にあわなかったが、普通の工具で加工する方法を短大の先生と協同で取り組み、低コスト化に成功して、顧客から大変喜んでもらえました。

将来、どんな目標をお持ちですか

今は顧客との交渉をうまく進めて顧客に満足してもらえることに全力投球しています。早く営業力を高めて会社になくはならない人間になりたいと思います。

仕事に関する技術・技能・知識はどのようにして習得されましたか

最初は馴れない顧客との交渉自体に苦労しました。次に交渉がうまく出来るように苦労しました。先輩や上司と、相談しながら試行錯誤でやっています。

今までは機械加工の知識だけでよかったが、これ以外に板金・溶接や電気・制御など幅広い知識が必要になってきました。

仕事に関する知識は個人的な学習と取引先や先輩から教えてもらっている。

短大生活で最も思い出深いものはなんでしたか

2年生の時に交通事故で入院し留年を余儀なくされましたが、そのため3年間じっくり学ぶことが出来たのがよかったです。

土・日や夜間などいつでも相談に行けるようになると良い

短大および後輩たちへのアドバイスをお願いします

学校への要望としては、土・日や夜間などいつでも相談に行けるようになると良いと思います。加工の仕事をやり出すと材料や材料力学などの知識が必要になってくるので基礎を十分に身に付けられるよう指導して欲しいです。

コンピュータやCAD・CAMなどのIT技術、新しい加工法や工具などをよく勉強してください。仕事によって電気や制御などの知識が必要になってくるので機械以外の勉強もよくしてほしいです。

No. 6	出身校：A	科名：生産技術科	卒業年度：平成6年度
	性別：男	年齢：30歳	
	業種：機械器具製造業		

いま、どのような仕事をされていますか

営業と営業技術部門に対して、新規図面作成に対する打ち合わせ、仕様が決まったの図面管理、評価のやりとり、見積、新規設計、現状の製品、改善、ねじり試験、評価、調査など、製造と設計検討、製造の治工具関係の技術打ち合わせを行っています。

ものづくりは、現場経験を生かし知恵を働かせること

仕事に対する考えはいかがですか

現状に満足せず常にトライし、技術的なことに幅広く対処したいと思います。ものづくりは、現場経験を生かし知恵を働かせることです。営業技術、製造との打ち合わせ（コミュニケーション）を積極的に行っています。

リードタイムの大幅な短縮と、コストダウンに成功しました

今まで、どんな経験をされましたか

平成11年に、〇〇工場に設備移転の際、新規設備を立ち上げました。サーボフレキシブルカップリング用のハブの機械加工ラインを、製造業のあるメーカーと組んで、一年半かけて完成させました。成果としては、内製化によりリードタイムの大幅な短縮と、コストダウンに成功しました。

エンジン用特殊カップリングであるセンターマックス用のハブを、試作段階でホブ盤にてスプライン加工の際、一回でブローチ加工したものを熱処理したところ歪みが発生しました。加工方法を放電加工に切り替えることで歪み発生を防ぐことができました。

スプラインを切ったあと、放電加工して評価します。これらの加工は試作に配属された時に旋盤、フライス、NC工作機械、レーザ加工などの技能を身につけ、実際にものを作った経験が役立っています。

センターフレックスカップリング関係の技術は、まだ習熟度は50%位なので、諸先輩の技術指導を受け、体感でレベルアップ挑戦したいです。

どのような資格を取得されましたか

普通旋盤作業2級技能士、アーク溶接、ガス溶接、玉掛。

機械設計などの熟練技術者になることが目標です

将来、どんな目標をお持ちですか

平成14年4月で30才、技術9年のキャリアですが、技術的にレベルアップし、機械設計などの熟練技術者になることが目標です。

壁や障害に対しては、技術的な課題に対して対処しています。サーボフレキシブルカップリングの売り上げ目標を達成するために、4チームが丸となっている。新しい治工具の検討なども、時には恩師とコミュニケーションしながら行い、こうしたコミュニケーションはストレス解消の動機づけになっています。

後輩に対するアドバイスをお願いします

卒業研究に入ってあわてるのではなく、一年間のスケジュール（タイムスタディ）をじっくりと立てること

です。

自分でつくったスケジュールに対して、自問自答し、なぜ遅れているのか、なぜ、なぜを、目標達成するまで繰り返して下さい。就職活動にしても、自分が何をやりたいのか、どういう業種機械メーカーか、商社かなどをよく考えて、資料、情報収集し、先生や先輩の話をじっくり聞く又企業訪問時にも訪問企業のカタログなどをしっかり確認し、会社の説明は素直な気持ちで聞くことが大切です。

No. 7	出身校：E	科名：生産技術科	卒業年度：平成7年度
	性別：男	年令：26歳	現住所：秋田県
	業種：水処理施設		従業員数：117名

いま、どのような仕事をされていますか

また、どんな経験をされましたか

水処理施設のリンクベルトという機械の設計をしています。水処理施設的具体例とリンクベルトの役割については、http://www.hitachiplant.hbi.ne.jp/seihin/seihin_frame.html

このアドレスに施設の事も書いてあります。また、リンクベルトとは、汚泥掻寄機の事です。

池の大きさが10m～50m程度の全国各地の池に設置する、丸形リンクベルトや、コンベヤ、ホッパー等を設計しました。

実際の現場では、土木寸法が数mm～数十mm違う場合があるので、現場調査に行き、計測しなければならない時もある。

誰も設計した事の無い物を設計した時、参考資料等がまったく無く苦勞した

仕事上、どんな壁にぶつかったことがありますか

また、どのようにその壁を切り抜けましたか。

まだ、誰も設計した事の無い物を設計した時、参考資料等がまったく無く、計算、他の機械との取り合いなどいろいろと苦勞した。また、池の寸法を間違っ、品物があわなかった事などもありました。

そのなかでも会社で初めてRの付いたコンベアを設計しました。このコンベアは今なお壊れていません(1998年設計)。

上司に相談したり、職短の先生等にも相談し、図書館等にも行き勉強して設計しました。

設計の段階でわからないことや使用する機器の選定等にはインターネットをいつも利用しています。

会社にとって必要な人材だと思われるようになりたい

将来どんな仕事上の目標をお持ちですか。

同業の他の会社が思い付かない様な発想の設計をし、会社にとって必要な人材だと思われるようになりたいです。また、特許などを出願し取得してみたいと思います。

仕事に関する技術・技能・知識はどのようにして習得されましたか

部署単位、課単位で必要な技能、基本的には機械操作(NC加工機、CADの操作方法等)といったものをOJTで習得しています。

パソコンを使い設計しているので、パソコンの事を勉強したいです。特にプログラミングとネットワーク関

系の事柄について深めていきたいです。

短大生活で最も思い出深いものはなんでしたか

卒業研究で、夜遅くまでいろいろ勉強しながら、進めていった事が思い出深く残っています。

勉強会、講習等開いて欲しい

短大に対するご意見、後輩たちへのアドバイスがありましたらお願いします

仕事上覚えなければならない事が多いので、勉強会、講習等開いて欲しい。開いているみたいだが情報が入ってこない。

専門職に付ける勉強をしているので、無駄にならない様にその道に進んで欲しい。

No. 8	出身校：G	科名：生産技術科	卒業年度：平成6年度
	性別：男	年齢：29歳	現住所：千葉県
	業種：プレス機械メンテナンスサービス	従業員数：141名	

いま、どのような仕事をされていますか

また、どんな経験をされましたか

第2製造部に所属しプレス機械のメンテナンスサービスを行っています。具体的には古いプレス機械の分解・整備（オーバーホール）を行う作業や、さらに機能を付加するような改造作業です。取り扱うプレスは国内、国外メーカーすべてですし、一般のものだけでなく特注品のものもあります。

学生のときはプレスのことなどあまり知りませんでしたが、新入社員研修でプレスのことを学び現場に配属され3～4名のグループで仕事をします。ひとりひとり作業を任せられます。会社では今まで取り扱った機械の資料がファイリングされていますので、解らないところは調べることができます。今はかなり経験してきたので、担当機械の工事予定表を作り作業ごとに部下に指示し仕事を進めています。また、海外への派遣も2回経験しました。

仕事上、どんな壁にぶつかったことがありますか

また、どのようにその壁を切り抜けましたか

国内、国外の機械が対象ですので、誰もやったことがない機械を担当するときは部品の分解手順すらわからないことがあります。また、初めてのものはスケッチデータを取り、資料作りをします。

会社には過去のデータや作業標準がありますので、それを参考になんとか対応しています。

マルチエンジニアを目指しています

将来、どんな目標をお持ちですか

まだまだ解らないことが多いので、どんな機械にでも対応できるようなマルチエンジニアを目指しています。要求精度が厳しいものほどやりがいがあります。

仕事に関する技術・技能・知識はどのようにして習得されましたか

基本的にはOJTで専門技術を習得しました。入社1年目から7年目まで研修プログラムがあり、資格取得

も組み込まれています。それぞれの年度で習得目標があり、個人プログラムを作り技能の習得評価をしています。

短大に対するご意見、後輩たちへのアドバイスがありましたらお願いします

機械加工をやっていて良かった。

機械加工、電気をしっかりやったほうが良い。

№. 9	出身校：G	科名：生産技術科	卒業年度：平成6年
	性別：男	年齢：27歳	現住所：東京都
	業種：機械器具製造業		従業員数：250名

いま、どのような仕事をされていますか

また、どんな経験をされましたか

超音波ワイヤーボンダの組立・配線作業をしています。

超音波ワイヤーボンダ自動機、手動機および搬送装置の組立作業の他、納入先に出張し修理作業やメンテナンス作業を行いました。

今年、スコットランドに一週間、2名で出張作業したことが大変勉強になりました。

仕事上、どんな壁にぶつかったことがありますか

また、どのようにその壁を切り抜けましたか

超音波ワイヤーボンダ装置の組立作業が思う様に進まなく、それは仕事の段取りに手間取ったためです。高度な仕事では時間がかかり、納期に間に合わないことなどがあります。

困ったことは上司に相談して、問題を解決して来ました。

自分の仕事に責任をもつ

将来どんな目標をお持ちですか

1. 現在の仕事をしっかりこなすこと。
2. 次工程作業を理解するように努力する。(各機種別の組立作業が、スムーズに出来るようになるため。)
3. 自分の仕事に責任をもつ。

仕事に関する技術・技能・知識はどのようにして習得されましたか

入社3ヶ月間は機械加工の基礎実習や研修を受けました。装置組立の基礎は、O.J.Tで上司より学びました。

職場の雰囲気が良く、何でも相談出来ます。

後輩に対する指導は、日々のコミュニケーションを大事にすることをモットーとしています。

今年会社は、ISO-9001を取得しましたので、ISO-9001の勉強をさらにしていきたいと思っています。

仕事内容を書類で残すために、計測した値をデジタル化する方法について学びたいと思っています。

短大生活で最も思い出深いものは何でしたか

卒業研究は、炭素ガスレーザーを用いたアルミ板加工の条件出しを行いました。この研究を通して測定方法を

学びました。

卒業研究は一生懸命やりましたが、本発表の時に緊張してしまったことを反省しています。

何ごとも、早めに、報告、連絡、相談（ほう、れん、そう、）が大切です

短大に対するご意見、後輩たちへのアドバイスがありましたらお願いします

機械装置組立作業の実習が出来るようになって下さい。何ごとも、早めに、報告、連絡、相談（ほう、れん、そう、）が大切です。パソコンは最低使えるようにしましょう。

L. F. CAD. 等の実習は大変役立っているので、学校での実習に力を入れるようにして下さい。

毎年卒研発表会の案内が学校から来ますが、お世話になった先生が転勤してしまったので参加する気がしません。

No. 10	出身校：U	科名：運輸機械科	卒業年度：平成元年度
	性別：男	年令：35歳	現住所：福岡県
	業種：ひずみ測定関連製品		従業員数：383名

いま、どのような仕事をされていますか

私は本学運輸機械科の1期生で、卒業課題や企業実習が縁となり、平成元年卒業とともに〇〇(株)へ入社しました。当社は、ひずみゲージとその応用製品またひずみ測定器の製造販売を行っており、当社の製品は、船舶、鉄道、自動車から、橋梁、ダム、高層建築物に至るまで各種試験研究から生産工程管理、保守および施工管理など幅広い分野で使用されています。

近年では、応力測定分野で長年にわたり培われたノウハウで、お客様のさまざまなニーズに対応する計測コンサルタント業務も行っています。現在、所属する営業部には2年前に配属され、福岡市内、北九州地方と山口県を担当するようになりました。担当域内では、大学も多数あり母校のポリテクカレッジも大事なお客様の一つです。営業部での職務内容は、これまで購入していただいた機器のアフターメンテナンスや消耗品の販売などです。また、新商品の提案や実験システムの開発をお客様と共同で行ったりもします。

今まで、どんな仕事を経験されましたか

営業になるまでは計測部で実際に現場施工を行っていました。九州は土木関連の仕事が多く、特に橋梁の施工管理機器に当社の製品が多用されています。入社以来携わった工事では、みなさんよくご利用の九州自動車道・八代～人吉間の橋やトンネルの幾つかも計測しています。例えば、トンネル掘進時の発破振動測定（爆薬でドカンとする時の振動です）や、大きな谷をまたぐ橋梁を架けるときには事故の無いようにさまざまな力のバランスを監視する装置を取り付けする仕事などです。また地すべり地域も多々ありますが、鹿児島で列車が土石流に呑み込まれた竜ヶ水という地域の地すべり災害監視システムもその一例です。特殊な例では玄海原子力発電所の原子炉格納容器の耐圧試験など、普段体験できないような仕事もしてきました。

現場での会話もちんぷんかんぷんでした

仕事上、どんな壁にぶつかったことがありますか

どのようにその壁を切り抜けましたか

もちろん新人のころは右も左も壁ばかりでした。運輸機械科を卒業し自動車専門家になるつもりが、まった

くの畑違いの会社に就職したのですから業界用語が通じるはずも無く、諸先輩をイライラさせ通しだったことと思います。特に九州では土木用語ばかりですから、現場での会話もちんぷんかんぷんでした。でも幸いなことに、致命的な失敗も無くここまでやってこれたのは、学生のころの授業内容が専門分野に偏らず、理解できたとは思っていませんが、電気や制御そしてパソコンなどに多かれ少なかれ触れられたことが役立ったと実感しています。

信頼される社員になりたいのです

将来どんな仕事上の目標をお持ちですか

これまでのお客様に対する接し方は、信用第一を念頭におき、仕事に取り組んでいます。取り扱う商品が特殊なために、ちょっとコンビニでという訳には行きません。そのため商品単価も日用雑貨などと比較して、割高に感じるかもしれません。でも、当社の製品は、品質・精度がいい製品なので購入いただいている訳です。これからも諸先輩方によって培われた信頼を崩すことなく、お客様との良いお付き合いを続けてゆき、「何か困ったことがあれば、〇〇測器の〇〇に電話しろ」とまで信頼される社員になりたいのです。

何か少しでもその仕事に生かせたら

短大に対するご意見、後輩たちへのアドバイスがありましたらお願いします

「1 期生」ということもあり、実習設備も今ほど充実しておらず、バーベキューをやったりもしましたが、何とか単位をいただいて卒業にこぎつけました。これも良い思い出になっています。おかげで科内の学生がまとまっていたのだと感じます。いまの学生を見ると、就職難でもあるのか、気持ちにゆとりが無いように見えます。現在の大学校に整備されている充実した実習・実験設備を使って、授業や実習を受けるわけですが、在学中に身につけた能力を実社会に出て 100%発揮しようと考えず、「何か少しでもその仕事に生かせたら」といった程度の気持ちで就職活動に取り組んでいるように見えます。

せっかくの学生時代ですから、今しか出来ないことを思い切り楽しんだらいかがですか？また大学校へのお願いですが、私がそうであったように異業種への就職も大いに結構だと思います。企業から見ても、事業分野以外の知識を持つ人材がどれだけ貴重なことかは感じていることだと思います。

No. 11	出身校：U	科名：金属成形科	卒業年度：平成元年
	性別：男	年齢 37 歳	
	業種：機械器具製造業		従業員 426 名

この光り具合を判断するのに高度な技能と経験が要求されます

あなたは、どんな仕事をしていますか

私は今プレス金型のメンテナンス作業に従事しています。主に自動車部品用の金型を手がけています。金型は〇〇工場で作成して、〇〇工場と〇〇工場の 2 箇所メンテナンス作業は行なわれます。

私の職歴は、入社してから 5 年間、〇〇工場の設計課で金型の設計を行い、その後工機課に移り、工作機械を使って金型を作りました。主に NC 工作機で製作し、マシニングセンターによる部品素材の穴あけ、ネジ立て、NC フライス加工などから始まり、ジグ中ぐり盤、ジグ研削盤による部品の仕上げ加工工程の担当となり、その後、〇〇工場に移動になり、現在の金型メンテナンス職場に移りました。現在は金型の定期的なリグライ

ンド(再研磨)や磨耗したり寿命がきた部品の交換作業、破損した金型の修理作業、金型の不具合個所の調整や金型改善作業などを業務としています。こちらの職場でも NC 工作機のワイヤーカット放電加工機、マシニングセンターなどで金型の部品加工も担当しました。

作った金型で実際に製品を抜いてみて不具合がでる場合があります。たとえば寸法が基準値に入らなかったりするので。作業者がプレス機で抜いた製品を私のところに持ってきますので、その不具合箇所を検討します。使っているプレスは 60 トンから 600 トンまでで、プレスする製品により使い分けます。

金型で抜いた製品は三次元測定器や形状測定器で測り、製品寸法、精度を確認します。製品形状を測り、その測定値をパソコンに取り入れ数値化します。この測定結果をみてパンチ（プレス金型の雄型）やダイ（プレス金型の雌型）の寸法や曲げ、絞りなどの成形形状を調整します。場合によっては金型の構造を変更したりすることもあります。

抜いた製品によっては部品が強度不足で破損するときもあり、材質を変えることもあります。当たりが強すぎると製品の当たり面が光ります。普通に光るのは問題ないのですが、あまり光りすぎると製品に寸法規格外が発生したり、部品に必要以上の負担がかかり強度上問題が発生してくる場合もあるので要注意ということになります。この光り具合を判断するのに高度な技能と経験が要求されます。金型も抜く回数が増えると、隅の部分が摩耗して、丸みをおびてきます。その部分は研削加工で落としたり粗くなった部品表面を磨き作業で仕上げたりします。プレスで抜いた後の製品は、研磨加工、バリ取りのためにバレル加工、熱処理、切削加工、表面処理など、製品の種類別の後工程を経て製品検査をして完成品となります。

五感をフルに働かせないとできない仕事で、勘をつかむのに大変苦労しました

今までの仕事の上で、どんな壁にぶつかりましたか

私は入社以来設計職場、工機職場、金型修理職場と 3 つの職場を経験しています。一般的には、入社時に配属された職場で、かなり長い間仕事をしますが、私の場合今までに 3 つの職場を経験できました。学校の所属科は金属成形科で、金属材料、板金、溶接、金属プレス金型とプレス機械の基礎を学びましたが、金型は、せん断加工までだったので、曲げ、絞りなどの成形加工は入社してからでした。

入社当時は一人前の設計者になるべく、自分なりに努力しました。金型の教科書は当時、初心者には理解しやすいのが少なかったため、現場へ行って実際に金型で生産している状況を見たり、先輩の図面から型構造や部品機能を勉強しました。早く一人前の設計技術者になりたいと少々あせりました。

26 才で工機課の職場に移動になりました。今度は製造現場です。NC、MC 工作機械を使い、金型を加工します。NC、MC 工作機械を使うのは高校以来でした。でも学校で汎用工作機械を使っていたので勘は働き比較的スムーズに仕事ことができました。

新しい職場に配属されると、その仕事の勉強をする時間はほとんど無く、部品を加工する能力が不足していても、すぐ仕事を与えられます。部品の精度を確保できないと、仕事はどんどん貯まってしまいます。うまくいかないときには上司や先輩に聞くのですが、最終的には自分の視覚、触覚、聴覚などの五感で覚えるしかなく、大変つらい日が続きました。加工の中にジグ研削盤でダイヤモンド砥石を使う、研削加工があります。微細加工です。精度は 1/1000mm が要求されます。ダイヤモンド砥石の音のかた、削れ具合や部品の温度を手で探りながらの加工です。この仕事はまさに五感をフルに働かせないとできない仕事で、勘をつかむのに大変苦労しました。でも自分なりの試行錯誤を繰り返し、2～3ヶ月たつと一般的な加工の技能は習得できました。

大型のプレスで金型が破損すると金型と製品がバラバラになることがあります。その原因を探るのが大変です。たとえば、火事場の消防士みたいで、焼け落ちた現場をみて出火原因を探ることになります。

どのようにその壁を乗り越えましたか

必要な知識は会社の先輩、後輩、職場を問わず、知識、経験の豊富な人に質問します。幅広い人材の中から多くの情報を集めて、自分なりに解決策を立案して解決に当たってみます。金型専門誌も参考にします。専門誌には多くの情報が盛り込まれており、大変役に立ちます。

問題が起きると、上司に相談しますが、強度や寸法の問題は設計部署に相談しますし、品質管理部門に相談

することもあります。もう少し部品強度が上がる材料はあるか、部品の熱処理をこのようにしてプレスで抜いたら、こんな問題が出てきたとか、材料メーカーに相談することもあります。材料メーカーは、いろいろな会社からの情報を持っているので、材料屋から見た点をアドバイスしてくれます。プレスのスピード、プレス加工油、材質、温度などの複合要因で問題は生じます。過去の社内データを分析しても原因がわからないような大きな問題にぶつかったときは、設計、製造、品質管理部門の3者で合同会議を開き検討します。

一つの製品の始まりから終わりまで全てを自分の手で行えたら

あなたの仕事に対する考えをお聞かせください

入社当時は同じ仕事をずっと続けたいと思っていました。とにかく早く一人前の設計技術者になりたいと思っていたのです。設計の仕事を5年やり、その後工機職場に移り、ここで技能の奥深さを体験しました。設計と違って、技能は日々の訓練から自分自身が身につけるしか方法はありません。努力から培われます。この職場に配属され、高い技能を持つ一人前の金型技術者になりたいと思いました。

現在の私の目標は次の二つです。一つは金型に対する総合力を身につけたいと思っています。すなわち設計から見た金型、加工から見た金型、組立から見た金型、の3者を統合する力です。金型の受注状況をみると、付加価値の高い製品は、精度が高く形も複雑です。ですから強度や寸法調整の問題などで、従来とは異なるトラブルもでてきますし、部品が多いと寸法誤差も多くなります。

二つ目の目標は、金型母材の耐摩耗性向上や耐久性の向上に取り組むことです。摩耗性向上の方法には、CVD処理（化学的蒸着法）、PVD処理（物理的蒸着法）、TD処理（高温塩処理法）などがあります。いずれの方法も金型表面に薄膜を作り、耐摩耗性を向上する表面処理技術です。金属の表面処理により耐摩耗性、耐焼き付け性、耐腐食性を向上できるのです。特にPVD処理は金型業界で広く採用されている処理法で、私が注目している技術です。表面処理技術について取り組み、金型母材の耐摩耗性向上に寄与したいと思います。部品に使用する素材も新素材が出てきますので現在使用している素材よりも、生産性が向上する材料も検討していきたいです。

また、現在私のところには後輩が数人おりますが、後輩に金型技術を伝え、後輩を育てるのも私の仕事であると考えています。

夢としては、私が作った図面で自分で金型を加工し完成させ、それをプレス機械に乗せて、金型調整をして自分で製品を抜いてみたいです。すなわち一つの製品の始まりから終わりまで全てを自分の手で行えたら、と思っています。

自分で考え前向きな姿勢で取り組んで欲しいと思うのです

最後に簡単に結構ですから、あなたの後輩たちへのアドバイスをお願いします

学校で学ぶ学生さんには、先生から与えられた課題に、熱意と向上心を持って取り組んで欲しいと思います。先生に指示されたから行うのではなく、自分で考え前向きな姿勢で取り組んで欲しいと思うのです。それは学生さんのこれからの人生は、不確定要素が大変大きく、今後どのような仕事をするのかは簡単には予測できないからです。

私の例をお話すると、入社した当時は設計部署での仕事が希望で、その希望通りの職場に配属されました。しかし、数年後には加工職場に配置換えとなりました。学生当時の実習は溶接、板金、シャーリングなどで、何でもこんな事をやるのだろうかというも思ったのですが、会社に入って金型の取り外し、金型の破損部分の溶接肉盛りや機械加工などの分野で、学校での実習がずいぶん役立ちました。私自身が壁にぶつかったとき、学校の実習で学んだことが頼りになったということです。

ですから学生さんには自分の得意な科目のみに興味を持つのではなく、広い分野を学んで欲しいと思います。勉強したことは必ずどこかで役立つのです。

No. 12	出身校：Z	科名：メカトロニクス科	卒業年度：平成6年
	性別：男	年齢：27歳	現住所：山形県
	業種：精密冷間鍛造成型製造		従業員数：145名

いま、どのような仕事をされていますか

自動車部品の冷間鍛造で用いる金型製作の仕事をしています。主に、金型の仕上げ工程を担当しており、パンチ、エジェクタ等の加工をNC円筒研削盤、ダイス等をNC内面研削盤を用いて形状仕上げ研削をしています。

加工の効率を上げるために、金型図面から、自分で加工に最適な砥石の形状などを設計し製作し使用しています。これは、市販の砥石軸では効率よく加工できないために、オリジナルの砥石軸を設計して加工し、それにダイヤモンド砥粒を電着して製作するものです。

今まで、どんな仕事を経験されましたか

入社して1年ぐらい冷間鍛造の現場で、自動車部品の成型を担当し、2年目から金型課に移り、金型を使う立場から、金型を作る立場に変わりました。

はじめは、金型の切削加工部門を担当し、旋盤、NC旋盤を使って合金鋼、高速度鋼を切削していました。金型について勉強して研削盤による加工を覚え、仕上げを担当するようになり現在にいたっています。

自社の金型加工用に超砥粒ホイールを開発してきたのですが、大変良いものができたので、販売するようになりました。それらの研削実験をする中で、膨大なデータをとることができ、砥石設計に研削データを反映させる社内モニタリング的な仕事をしています。

理論と実際を付き合わせるかたちで「研削術」を身に付けることができました

仕事上、どんな壁にぶつかったことがありますか

また、どのようにその壁を切り抜けましたか

金型の材料が進歩して超硬合金の金型が増加してきて、金型の内製化を強化するために、最新のNC研削盤を導入しました。それ等を扱う新規部門ができ、その担当者になった時に図面の要求精度（面粗さ、形状寸法の精度）に応じきれずき、量産の立ち上げに時間がかかってしまいました。

会社としては、「高性能の最新の機械を導入し、高性能の研削砥石を使っているのだから、できないはずはない」ということではありますが、なかなかうまくいかず、相当追い詰められました。

社内で「超砥粒ホイール」を製作していることもあり、砥石設計を行っている上司に相談し、砥石について、理論的なことを勉強しました。そして、形状測定機や表面あらさ測定機の使用法を覚え、加工を行うたびにデータを取り、加工条件、加工方法について勉強しました。理論と実際を付き合わせるかたちで自分なりの「研削術」を身に付けることができました。

それに、自分の負けたくないという気持ちと、会社の変革期にあり、若い人の意見が反映され、やる気が評価される空気が強まったこともあります。

社内の「提案制度」などでも、進んでだしましたが、きちんと評価されてきました。

将来どんな目標をお持ちですか

いままで、超硬メーカーから購入していた「超硬金型」を社内で作れる幅を広げていきたいと考えています。将来的には、外販できるレベルまでに行きたいと思っています。

失敗を恐れずにチャレンジ精神を持って仕事に取り組む

仕事に関する技術・技能・知識はどのようにして習得されましたか

また、後輩にはどのように指導していますか

上司からは「失敗を恐れずにチャレンジ精神を持って仕事に取り組み、失敗しても次に反映させること」と指導されています。

会社からは、各種の展示会や機械メーカーなどに出張に行かせていただき、いろいろなものを見て技術習得に心がけています。

後輩には、仕事の内容は、必ずノートに取るようにし、疑問なことは迷わず聞くように指導しています。

研削はとても奥が深いので、研削加工の種類や砥石の種類、そして材料との相性などを勉強していきたいです。

短大生活で最も思い出深いものはなんでしたか

また、後輩たちへのアドバイスをお願いします。

卒業研究で、教官と研究メンバーと夜遅くまで一つのことに集中してがんばったことです。

企業実習は大変良いことだと思います。学校では体験できないことがたくさんあると思います。積極的に取り組んでください。

No. 13	出身校：A	科名：制御技術科	卒業年度：平成7年度
	性別：男	年令：27歳	
	業種：機械器具製造業		

いま、どのような仕事をされていますか

会社全体のシステムの中で、顧客～営業～製造～物流の流れ全体のメンテナンス、変更、改善、分析資料などを手がけています。またロータス社グループウェアソフトのノーツソフトのベース作成も担当しています。主な仕事は、メイン基幹システムの安定化を計ること。

ノーツソフトのデータベース開発にて便利なものの開発展示会、雑誌、専門誌で勉強し思考錯誤しながら見直しを行い、開発を進めている。

ペーパーレス化出来たことにより、時間を短縮でき、コストダウンに成功した

今まで、どんな経験をされましたか

データベースを使って部門間から渡って情報を連絡する。データベースをつかった時から1カ月位専門にやり、流れ、運用面の確認をしてからデータベース作成した。

ペーパーレス（FAX、メモをなくし）データベース化出来たことにより、時間を短縮でき、機械損失をなくしコストダウンに成功するというメリットがありました。

卒業研究で、3次元CADを用いてでランドマークタワーの模型の製作に取り組み完成させました。入社後1年目のCAD、図面作成に大変役立ちました。

2年目からパソコン修理関係の仕事に入り、3年間位経験した後パソコンを設置し、社内ネットワークを構築し、現在の仕事に入りました。

どんな勉強をしてきましたか

専門誌の他にパソコン関係の専門展示会に積極的に参加し情報を収集しています。ロータス社のノーツソフトの勉強会にも月一回参加しています。情報収集したものは、常に自分でメモし、これらはパソコンに入力整

理して利用している。

インターネットで検索して、そこから情報を取って来て、これをソフト開発や改善に生かしています。

価値を生み出すためにチャレンジしました

どのような資格を取得されましたか

システムアドミニストレーターの初級にチャレンジしました。メーカーシステムを進める上で簿記3級にチャレンジ結果は69点で不合格でしたが、1点不足なので私としては、実力が身についたと思います。

私は工業高校から職業能力開発短期大学校に入学したので、機械系には強いが経理面で弱いので、価値を生み出すためにチャレンジしました。

将来、どんな目標をお持ちですか

今私は27才。ノーツソフトの開発を極めたいと思っています。来年度からノーツに関してはより専門的に、深く研究し開発をして行くことを目標としたいです。

開発に関しては、原価がどの位かかるか試算して自分としての職能給に対し、レベルを一段上の主任の仕事をしていると思う。耐えず、自分より高い仕事チャレンジして行くことに生き甲斐をもって進みたいです。

いやなことは忘れ、くよくよしないで常に目標に向かって切磋琢磨して行きたいと思います。

体で覚えるように努力して欲しいです

後輩に対するアドバイスをお願いします

学生時代は、実習の際に工作機械、パソコン等が一人一台使うことが出来るが、企業内では何人かで一台を使うケースが多いです。従って学生の時に一人一台実習で使うことが出来るのだから、思う存分体で覚えるように努力して欲しいです。

短大校には、最先端、最新鋭の設備があるが、企業では経済状況もあり予算化が難しく、会社の業績によっては、最新の設備を導入出来ない所もあります。学生時代にたくさん装置を使って体で覚えるよう、さらなる努力をして下さい。

No. 14	出身校：S	科名：制御技術科	卒業年度：平成10年度
	性別：男	年齢：24歳	現住所：香川県
	業種：配電盤設計製造		従業員数：70名

工場長から「何とかしてくれ」と言われて改善し、社長から褒められました

いま、どのような仕事をされていますか

また、どんな経験をされましたか

配電盤・制御盤の外箱を作る板金と溶接作業をしています。スポット溶接機が古い型なので、溶接時間を経験と勘に頼っているため品質に安定性がありませんでした。この溶接機にタイマ回路を付加して溶接時間を一定化させて品質の向上を計りました。これは工場長から「何とかしてくれ」と言われて改善したもので、社長から褒められました。

現在、「パテなし塗装」の改善テーマについて取り組んでいます。

入社からずっと今の作業をしています。応援で一時的に塗装作業や配線・組立作業をしたことがあります。

仕事上、苦勞したことがありますか

どのようにその壁を切り抜けましたか

はじめは板金・溶接作業について学校で習っていなかったので馴れるまで戸惑いがありました。特に、溶接作業は後工程の塗装作業に影響するので、どうすればうまく出来るか苦勞しました。

最初は先輩がOJTで教えてくれたが、あとは自分で試行錯誤して覚えていきました。わからないところや難しいところは先輩に相談しながら行っています。

将来、どんな目標をお持ちですか

また、仕事に関する技術・技能・知識はどのようにして習得されましたか

今は板金・溶接作業をしているが、これ以外に塗装や配線・組立作業など幅広くやっていきたいです。将来的には設計の仕事をしていきたいと思っています。

初めは先輩がOJTで教えてくれたが、後は自分でうまく出来るように試行錯誤でやってきました。個人的に電気関係の勉強を含めて電検三種の資格に挑戦しています。

文章作成に慣れておく必要があります

短大生活で最も思い出深いものはなんでしたか

また、後輩たちへのアドバイスをお願いします。

カンコロジロボットの製作が一番楽しかったです。専門科目や実習は多くあったが、一般教養が少なかったように思います。仕事や専門のことだけでは人間として狭いと思うので、世の中の見方や考え方なども学べるとよいです。

専門知識や技術だけでなく、一般教養にも興味を持ち勉強してほしいです。会社に入って年数が経つと書類作成が必要になってくるので、文章作成に慣れておく必要があります。

No. 15	出身校：S	科名：制御技術科	卒業年度：平成10年度
	性別：男	年齢 24才	
	業種：光通信機器製造		従業員数：1009名

あなたは、どんな仕事をしていますか

私はフォトニクス事業本部の光波回路事業部に所属しています。フォトニクス事業本部では主として高性能半導体レーザとその受光素子を作っており、私の職場では、光を波長毎に取り分ける分波器と、その逆の、いろいろな波長の光を1つにまとめる合波器を設計し生産しています。私の仕事は、制作した合波器が顧客の要求する特性を満たしているかどうかを調べる合波器の測定業務で、測定して得られたデータを解析するためのプログラムを作成することもあります。

私は現場でリーダーシップをとり作業効率化に務めています

今までの仕事の上で、どんな壁にぶつかりましたか

どのようにその壁を乗り越えましたか

電気や光学の専門的な知識がなかったので、入社当時会社での仕事の内容をよく理解できず、上司や先輩が

望むようには仕事がなかなかできませんでした。私の周りの方は研究開発的な仕事を重視する人が多く、私には苦手な分野でしたので大変とまどいました。しかし、苦手な分野で力を発揮できないままでは当然評価が下がる一方なので、私の置かれている状況の中で、一番力を発揮できる仕事を一生懸命にやってきました。

短大ではまじめに勉強してこなかったから、4年制の大学で勉強をしてきた人には専門知識ではまったく刃がたちませんでした。しかし、何か勝てることがあるはずだと信じ、その人たちに勝てることを必死に探しました。見つかった答えは、人を使うということでした。会社に来てくれている大勢の派遣社員の方達が、気分良く前向きに仕事をできるような環境を作るのは、なかなか難しいものです。私は人づきあいが得意だったので、派遣社員の方とうまくコミュニケーションをとりながら仕事を割り振り、現場での作業の流れをスムーズにすることができました。

会社が伸びるためには、研究開発・技術開発によって、新しいよりよい製品を作る社員が必要です。それも短時間に、大量にかつ低コストで生産し、販売できなければ会社としてなりたちません。私の所属している部署でも、データ解析を伴う技術検討を行うと同時に、生産現場として“短時間で大量に低コストで”が、常に要求されます。こうした生産現場の要求に応えるために、私は現場でリーダーシップをとり作業効率化に務めています。

どんな仕事に対しても“早く正確に！”

あなた仕事に対する考えをお聞かせください

今は、現場を管理する仕事がほとんどですが、一流のプログラマーになりたいという夢があります。現場での仕事は、9割がパソコンを使っての測定作業です。私が作成したプログラムで、作業の効率化、作業時間の大幅な短縮、そして、誰が処理してもミスがなく正確な結果を得ることができるプログラムを作り、作業時間の短縮とコスト削減を実現したいと思っています。

自分の取り組んだ仕事が、目に見える形で残ることは大変うれしいことです。ひとつ結果を残せば、次へのステップとなり、自信につながります。

私のポリシーは、どんな仕事に対しても“早く正確に！”です。通常必要とされる作業時間の半分で仕事をしたいと思っています。通常4時間必要な測定であれば、その半分の2時間を目標にしています。仕事を正確に行うことは当然のことです。測定にしても、毎回同じ測定ばかりではありません。製品によって測定法が変わり、データ処理の方法も変わってきます。1つの仕事を少しでも早くこなすことによって、1日にこなすことができる仕事の量が増えてくるのです。新しい合波器の測定を多くこなせばその分自分のスキルもアップします。

“早く正確に！”を信条に、勤務時間のなかでの自分自身のレベルアップを目標として日々業務に取り組んでいます。

教科書は自分の財産、先生方とのつながりが最大の強み

最後に簡単に結構ですから、後輩たちへのアドバイスをお願いします

皆さんは学校で購入した教科書を大切に保管していますか？学校を卒業して就職してから役に立つ教科書がたくさんあります。卒業を機に教科書を後輩に譲ってしまう人もいますが、学校で使った教科書は自分の財産だと思ってください。どこの一流大学へ行っても教えてくれないような知識や技術を教えてくれる、あなたの学んだ学校が選んだ教科書なのです。すぐに役に立つことはなくても、仕事をしている上でいつかきつと役に立つ時がきますので、卒業後も大切に保管しておいてほしいと思います。

また、何より大切なのは卒業してからの先生方とのつながりです。就職してからも困った時や悩み事がある時、また仕事で分からないことがあってつまづいている時には、先生に相談してみてください。きっと相談に乗ってくれます。勉強も教えてくれます。私はそれで何度も助けられました。是非、卒業後も先生と学生の関係でつながりをもっていてください。それこそ、本学を卒業したあなたの最大の強みです！

No. 16	出身校：V	科名：金属加工科	卒業年度：昭和63年度
	性別：男	年齢：35歳	現住所：鹿児島県
	業種：精密冶工具部品、レーシングパーツ製作	従業員数：6名	

部品の良否が即結果に反映されるのでやりがいのある仕事でした

いま、どのような仕事をされていますか

また、どんな経験をされましたか

半導体の製造装置の部品加工やレーシング用オートバイの部品をメーカーに供給する業務をしています。マシニングセンタ、NC旋盤での切削加工が主です。

全日本ロードレース（鈴鹿8時間耐久レース）のレース用オートバイのサスペンションやホイールの部品を供給しました。

部品の良否が即結果に反映されるのでやりがいのある仕事でした。開発した部品を使ったオートバイがレースで完走した時の気持ちは何事にも代えられないものがあります。

自分を叱咤激励して乗り越えました

仕事上、どんな壁にぶつかったことがありますか

また、どのようにその壁を切り抜けましたか

技術的に難しい加工部品が多く、また納期も短いためトラブルが発生した時は深夜まで仕事をしたり、徹夜が続くこともあります。特に、オートバイの部品は開発段階のものが多く、常にメーカーと連絡を取って仕事をしています。

会社を経営しているという自負と従業員のことを思い、自分を叱咤激励して乗り越えました。

また、半導体の部品はなかなか完成後の全体像が見えませんが、オートバイの部品の場合は苦労した結果が良く見えるためレースでの勝利の瞬間を思い浮かべ、がんばりました。また、メーカー等に問い合わせたり、仕事仲間に相談しながら切り抜けました。家族の協力も心の支えになりました。

自分の会社名の入ったバイクが優勝するのを見たい

将来どんな目標をお持ちですか

現在、半導体部品加工とオートバイの部品加工は同じ程度の業務量ですが、経営の安定を図るため、自動車（4輪）の部品加工にも乗り出そうとしています。そして、全国的なオートバイレースなどで自分の会社名の入ったバイクが優勝するのを見たいと思っています。

今までどのような研修を受けてきましたか

また、後輩にはどのように指導していますか

私は金型の加工会社等に10年間勤務し、その後独立して会社経営に乗り出しました。現在設立5年目ですが、よく、ポリテクセンターの加工セミナー等を受講し、技術の習得に励みました。安価で丁寧に教えてもらい非常に助かりました。このセミナー受講が独立へのきっかけともなりました。従業員へは、展示会とかセミナー等へ積極的に参加するよう指導しています。

共同で1つの仕事をやり遂げる喜びを知ったのもこの卒業研究でした

短大生活で最も思い出深いものはなんでしたか

授業の内容はあまり覚えていませんが、卒業研究は金型の設計をテーマにしました。苦勞したことを今でも良く覚えています。徹夜も何回もやりました。共同で1つの仕事をやり遂げる喜びを知ったのもこの卒業研究でした。

加工のエキスパートになれるような、もの作り専門の科があっても良い

短大に対するご意見がありましたらお願いします

加工のエキスパートになれるような、もの作り専門の科があっても良いと思います。また、今後、設計は必ず3次元化しますので、2次元図面だけではなく、3次元設計まで教えてほしいと思っています。

短大の卒業生を、従業員として数人採用しています。今後もお世話になりたいと思っています。

No. 17	出身校：Z	科名：メカトロニクス科	卒業年度：平成11年度
	性別：男	年令：21歳	現住所：山形県
	業種：ミシン、その他産業用機械		従業員数 210名

学生一人ひとりの能力、個性をふまえたきめ細かなマンツーマン教育

学生生活の思い出をお聞かせ下さい

平成10年3月に6期生として入学しました。地域の企業活性化に取り組む気風があふれていました。私もメカトロニクス科内のこうした雰囲気触発され、就職内定先対応の卒業研究に取り組みました。〇〇研究室で企業の問題解決型卒業研究『CAE（Computer Aided Engineering）による小型ミシン用フレームの応力解析』に、とことん打ち込みました。企業から与えられた課題に、チャレンジして、自らの力で解決しました。感慨もひとしおです。少人数の「塾的雰囲気」で、学生一人ひとりの能力、個性をふまえたきめ細かなマンツーマン教育でした。教官の厳しい指導を通じて人間形成ができました。

生きた現場は、学んだ理論がどのように展開されているかを体験する

あなたは、どんな仕事をしていますか

平成12年4月に〇〇工業に入社しました。最初、現場研修として、家庭用ミシン、食品機器等のライン作業に従事しました。生産現場は、いろいろな工学の理論が複雑に組み合わせられています。まだまだ解決されていない課題もあります。こうした生きた現場は、学んだ理論が、実際の生産現場でどのように展開されているかを体験することができます。新たな問題意識と勉学意欲が湧いてきます。

仕事の上で、どんな壁にぶつかりましたか？

これまで、ミシン用フレームは、従来の経験やノウハウによって開発されてきました。それは経験によって培われてきたものです。しかし、激しい低コスト化競争で大幅な形状の変更が必要となってきました。低コスト（軽量化）の設計に当たっては理論的な手法（CAE）が必要です。そこで、当初の生産現場実習予定を切り上げ、平成13年10月に新製品の開発（ミシン用フレームの強度解析 CAE 担当）に配属となりました。

どのように、その壁を切り抜けましたか

CAEの専門知識およびプログラミング技術に精通した技術者は私だけでした。平成14年1月に恩師の指導を受けました。ミシン用フレームの軽量化について短大にある世界トップレベルの3次元CADソフトウェアを用いて解析しました。ミシンの動揺部品の運動シミュレーション解析に取り組み、その結果に基づいて軽量化フレームを設計しました。会社で試作したフレームはシミュレーション通りの結果が出ました。解析結果は正確で会社で高く評価されました。苦勞が報われた思いがしました。

企業は“モノ”を創り上げる行動力の強い人材を求めています

最後に、短大へのアドバイス、助言をお願いします

地元の産業に密着した”実益的”教育だから面白いです。企業は“モノ”を創り上げる行動力の強い人材を求めています。すなわち、普遍的な知識よりは専門的な知識の高い技術者です。地域の産業を取り巻く環境は厳しくなっています。企業は短大に活路を求めています。卒業後も支援していただきたい。企業と連携した仕組みを創っていただければと思います。学生を会社に送れば終わりという時代は終わりました。卒業生のために多様な支援システムをお願いします。

No.18	出身校：A	科名：生産技術科	卒業年度：平成9年度
	性別：女	年齢：26歳	現住所：神奈川県
	業種：真空機器類の製造販売		

ものづくりの一連のプロセスを短大で学んだ事が役立っています

いま、どのような仕事をされていますか

現在、真空機器の開発・設計を行っています。仕事に対しては、非常にやりがいを感じています。ものづくりの一連のプロセスを短大で学んだ事が役立っています。

今までどんな壁にぶつかりましたか

どのようにその壁を切り抜けましたか

開発過程で技術的にいきづまることがあります。新しい事柄なので、常にtry&error&tryです。

上司の思想性により女性エンジニアに対する処遇が違い、専門職ではなく事務職的に扱う上司がいます。しかし、これからは、能力評価が制度化されますので、男女の処遇差についてはなくなると思います。

人に責任を転嫁しない（技術屋は逃げない）

あなたの仕事に対するお考え、抱負をお聞かせ下さい

どんな場所でも必要とされる人間になりたい。

人に責任を転嫁しない（技術屋は逃げない）

新規製品開発を行っていきたい。

仕事に関する技術・技能・知識はどのようにして習得されましたか

また、今後なにを学びたいですか

専門技術についてはOJTで習得しました。特に、企画力、情報収集、マーケティングなどは自己努力して

きました。しかし、もっと総合的な設計能力を身につけたいと思っています。また、時代の流れに対応するため、海外技術資料が読めるため、技術的な会話ができるために自己啓発として英語を勉強しています。でも、忙しくて、なかなか知識を蓄積できません。

ネット化が必要ではないのでしょうか。

短大に対するご意見、後輩たちへのアドバイスがありましたらお願いします

設備環境については良かった、科目構成については実技に偏っていたかも知れませんが、指導体制については少人数が良かった、期間についてはちょうど良いと思う。

ものづくりに関するプロセスの概要を学べたことが良かった。しかし、プレゼンテーション技術、実験法（計画とデータ処理など）を拡充した方がよいのでは。

就職活動については、自分が納得する会社を選ぶ（熱意が必要）事が必要です。

Eメールなどで、勉強会（セミナー）等知らせたい。ネットを利用して、情報のやり取りができれば良いと思う。

恩師や同級生との交流については、科の同窓会があり、素晴らしい仲間に出会えます。また、いろいろな事を学べます。しかし、先生方が替わりすぎます。（短大時代の先生がほとんどいない）ネット化が必要ではないのでしょうか。

No. 19	出身校：〇	科名：金属成形科	卒業年度：昭和63年度
	性別：男	年齢：35歳	
	業種：精密板金	従業員数：38名	

今まで、どのような仕事をされてきましたか

大手電気メーカー関連のソフト会社に3年間勤務した後、現在の会社に入社しました。

その頃は、大企業が刑務所に見えました。現在の会社では、短大出身者が8名おり、平均年齢30才以下でがんばっています。現在、製造部課長として指導する立場となり、毎週水曜日にミーティングを行い、各自の担当分野での改善、問題指摘について論議しています。

あなたの仕事に対するお考え、抱負をお聞かせ下さい

納得はすれど、満足しない

技術職なので日々勉強（職人的感覚）

会社の一構成員として会社の発展に取り組む姿勢

家族的雰囲気の中にもモノづくりに対する研究姿勢

メンタルな面での指導が中心で、兄貴的存在でありたい

今までどのような指導を受けてきましたか

また、後輩にはどのように指導していますか

先輩からの指導は、計測器、機器などの専門知識について教えてもらい、協力会社との技術的交流で養ってきました。

後輩への指導は、メンタルな面での指導が中心で、兄貴的存在でありたいと思っています。また、自分の将

来が後輩の将来と思い、自分自身が手本となるようにしています。

以前は世代間ギャップもあり、社内改革の断行（首を覚悟した）を行いました。

心の把握、プロである自覚、給与を稼ぐ自覚、ハングリー精神が必要です。

ポリテク出身であることが大きな資格である

短大に対するご意見、後輩たちへのアドバイスがありましたらお願いします

ポリテク出身であることが大きな資格である。業界の関連知識が身に付いている（飲み込みが早い）後輩が多く入ってくると、自分自身を客観的にとらえることができた。

短大に対しては、同業者ネットワーク、学科を越えた同期生ネットワークを考えていただきたい。

№. 20	出身校：A	科名：生産機械科	卒業年度：平成元年度
	性別：男	年令：32歳	現住所：東京都
	業種：公共職業訓練		

教材コンクールで労働部長賞を受賞しました

いま、どのような仕事をされていますか

〇〇産業労働局が設置した職業能力開発施設（技術専門校）における、職業能力開発指導全般に従事しており、所属科、仕事内容は次の通りです。

校名：〇〇技術専門校

科名：プラスチック加工科（訓練期間1年間、定員25名、一般向け）

内容：プラスチックの射出成形、圧縮成形、中空成形、真空成形に関する成形機械の操作、設定、関連知識に関する訓練指導しています。

現職においては、職場紹介のHPも製作しました。HP作成の経験から2年目の今年、射出成形の理解を助けるためにアニメーションを用いた動きのある教材「プラスチック成型機械の基礎」を製作しました。開発した教材は、平成14年度の〇〇能力開発教材コンクールにおいて労働部長賞を受賞しました。

今まで、どのような仕事を経験されましたか

(1) 経験職種

平成2年4月～平成13年3月(延べ11年)

職種：国家公務員 所属：〇〇〇〇

技術資料作成（図面作成、装備品調達、検査官業務）、艦船造修（艦船修理・改造の企画、調整、検査官業務）、技衡資料作成（図面作成、装備品調達検査官業務）をしていました。

退職時は係長でした。

平成13～：現職

学生時代、船が好きであった事で、前職を職業として選択しました。在職中の艦艇修理の実務経験が認められ、職業訓練指導員の資格を得て、「資格を活用できる環境を」との思いから現職を受験し、採用されました。学生時代に経験した機械科の指導員であったのなら、また変わってきたと思います。後述致しますが、未経験の領域で毎日が勉強です。

(2) 資格取得

職業訓練指導員（機械科、平成7年）

「あわてず」「騒がず」「動じない」で切り抜けてきた

仕事上、どんな壁にぶかったことがありますか。

また、どのようにその壁を切り抜けましたか

- (1) 仕事を溜め込みすぎて、それを処理するのに相当苦労しました。(原因：優先順位のミス、怠惰、楽観)
 (2) はじめのころ、現場でうまく対応できず、信頼を得られなかったことがあります。(原因：勉強不足)

艦艇の修理といった特殊な環境での仕事でしたので、突発的な事故による修理は、マニュアル化されていなかったりして、自分自身で判断しなくてはならない場合に判断に自信がなかったりしました。具体的には、限られた期間における修理の方法は、妥当であるのか？裏付けされる強度計算は問題がないのか？検査は、方法は適切であるのか？などです。現場監督的な仕事の範疇で数千万円の判断をしてきましたから緊張の連続でした。業者に対して自分自身の判断で指示を出していく場合に、経験のなさを痛感いたしました。結果として、「あわてず」「騒がず」「動じない」で切り抜けてきたように思います。

仕事上の困難は、自分自身の判断ミスや勉強不足からきたことがほとんどで、まずは、やるしかない！と腹に決め、毎日半徹夜でこなした覚えがあります。また、仕事の安請け合いをしてしまったこともあり、それらは反省点となっています。

将来・どんな仕事上の目標(夢)をお持ちですか

やはり・自己のスキルをあげ、こだわりをもって仕事をこなしていきたいです。今後の技術の世界は、自分の専門にこだわらず、おおきな視野で、体系的なものごとを理解する必要があると思っておりますので、なんでも経験する心構えで臨んでおります。

専門的な研修の受講で、体系的に考えられるようになった

仕事に関する技術・技能・知識はどのようにして習得されましたか

(1) 前職において

前職は、いわゆる造船の世界でして、短大時代に学んだこととは全く違う分野でして、かつ、その中でも軍艦の建造、修理、改造はその業務上、民間技術とは異なるものが多く、そのほとんどが独特なものでした。

しかし、業務の教育に関する体系的なものはほとんどなく、手探りで、独学でやってきたものがほとんどでした。例えば、現場においては、職人の仕事振りを見て覚えたり、設計担当と遅くまで討論したなど、体当たりで覚えた経験があります。そういった点では、独学の方法(勉強の仕方)が身についたと感じております。

(2) 現職において

現職の射出成形は、全く未経験の分野でして、恥ずかしながら着任するまでその分野を全く知りませんでした。現在2年目(在職1年8か月目)ですが、最初の1年間は全くわからない状態でした。手探りの状態が続きました。

仕事を理解するきっかけは、短いながらも専門的な研修を受けたことです(5日間の初級成形コース)。それがきっかけとなって理解がすすんでおり、体系的に考えられるようになっております。こういった専門的な研修の受講は前職では皆無でしたので、その効果に驚いております。

(3) 今後必要となる技術

私の専門は機械ですが、電気、電子、情報といったものの知識が年々必要になるのを感じております。実際に扱う機械の構造にそれらが含まれているからであり、それらを知らないと理解ができず、勉強せざるを得ない状況になります。今後は特に情報や制御といった分野が必要になると感じております。

短大生活の思い出はなんですか

学生寮、学生自治会活動(副会長)、学園祭実行委員会、クラブ活動(水泳同好会)などなど、あっという間に過

ぎていった覚えがあります。しかし、やはり思い出深いのは、卒業研究です。「静的二足歩行ロボットの製作」だったと思いますが、まとめあげることができ、とても嬉しかったと記憶しております。最終的に形にする事は、仕事にも生きておりますし、自信につながっています。

短大に対するご意見、後輩たちへのアドバイスをお願いします

設備、授業科目ともに特に過不足はないと感じております。強いていえば、数学、英語の授業をより充実するとよいと思います(数学、英語とも相当苦勞しております)。

同窓会：定期的に「暗黙の了解」で集まるのがいいと思います。(学園祭や研究発表会時など)

交流等：卒業しますと年々離れていってしまい、振り返る余裕もなかなかありませんので、音信不通の状態が多いです。同窓会などでやってもいいと思います。

就職等：まずはどこでもいいので入社してみてください(関連でなくてもいいのでは)。

そこで思い切り仕事をされるといいと思います。

№. 21	出身校：A	科名：電子科	卒業年度：昭和53年度
	性別：男	年令：43歳	
	業種：光学機械器具製造	従業員数：200名	

いま、どのような仕事をされていますか

製造部マネージャーとして、主に製造スケジュール等の管理を行っています。同時に生産グループのリーダーとして、生産現場の指揮をとっています。具体的な仕事としては、ハイスピードカメラ・ハイスピードビデオ・航空機搭載用のビデオレコーダや視覚計測用機器の製造・修理やフィルムカメラの製造・修理に関わる幅広い仕事内容です。例えば、現場と打合せを行いスケジュールを決定したり、実際に現場に入ってトラブルシューティングを行い、また、新しい設備・治工具の検討など生産技術的な仕事も同時に行っています。

ハイスピードカメラやビデオは、一般的にはあまり知られていませんが、高速現象を解析には欠かせない機器で、主に生産ラインのトラブルシューティングやカークラッシュテスト用として使用されています。

管理的な仕事ウエートが高くなっていますが、私自身、物作りが好きなこともあり、出来るだけ現場に入るように心がけています。

今まで、どのような仕事を経験されましたか

私が入社したころ、ちょうど航空機搭載用のVCR(ビデオカセットレコーダ)の製造が始り、以来VCRの製造に携わってきました。その間、VCRに関してのいろいろな技術を学ぶことができました。

特に、一般の家庭用ビデオとは異なり振動対策等の耐環境性が要求される為、製造技術も高度なものが要求された事から非常に良い経験をすることができました。同じくハイスピードビデオやカメラの生産にも長年携わってきました。製品が特殊なこともあり仕事を通し、いろいろなノウハウを学ぶことができました。生産自体が、多品種少量生産の為、一人の人間が幅広く仕事をこなす必要があり、対応する為の知識を身につける必要がありました。

一時、新製品の製品化の為に設計業務も行ったりもしましたが、現在は管理的な仕事が主となっています。

疑問に思うことは、実験を繰り返し、技術者の意見を聞きながら克服してきました

工作上、どんな壁にぶつかったことがありますか

どのようにその壁を切り抜けましたか

20代後半に製造部のまとめ役としての製品の頭出し（製品化）を担当しました。設計部からの図面を元に機械屋と電気屋の調整をしました。図面どおりに現場ではいかない点が多く、グループで強調しあって生産工程を検討しました。私たちが扱う製品は、 -40°C から $+60^{\circ}\text{C}$ の温度変化や加速度が 150G になるなどの激しい環境化での耐久性が求められておりますので、疑問に思うことは、実験を繰り返し、社内の他部門の技術の意見を聞きながら克服してきました。このときの経験が、その後（30代初め）海外のサービスマン研修の研修計画や研修担当を任される事になったと思います。そして、今の立場を任されたとも思います。自社製品を開発・製造・販売をおこなっていますが、製造部の部門長として、年長の先輩方をもまとめ上げる必要があります。気配り、技術の蓄積等気が抜けない状況です。

将来、どんな目標をお持ちですか

後輩たちへの助言と同時に、自分自身に対して、常に挑戦の精神で取り組んでいきたいと思っております。

技術力とチームをまとめ上げる力が、現在の役職を支えている**仕事に関する技術・技能・知識はどのようにして習得されましたか**

学生時代で学んだ実践的な考え方が役に立っております。製品が特殊であるために、先輩らに専門的な知識を得たり、文献等を参考にしました。具体的には、実験方法や計測機器の使い方が、理屈ではなく実際に繰り返し学んだことが、入社後、自動配線検査装置や基盤検査の簡略化装置などの各種の検査ジグの考案に役に立っております。納得するまで実験を繰り返し、装置を考案してきました。一式数百万円の製品ですが、社風が社員の自主性を重んじ、やる気さえあれば比較的自由に好きなことをやれる環境であったこともよい方に作用していると思います。但し、納期がありますので、徹夜は当たり前ですが、自分自身の考案を製品製作に貢献させてきた技術力とチームをまとめ上げる力が、現在の役職を支えていると思います。

短大生活の思い出はなんですか

寮生活が思い出で深いです、そして、自慢できませんが、授業をさぼったことが思い出されます。

挑戦の心構えがあれば、必然的に道は開ける**短大に対するご意見、後輩たちへのアドバイス、がありましたらお願いします**

設備は、十分に整っていたと思います。そして、実験実習の時間が十分にあったことが、先程の私の技術力の裏付けになったことと思います。

入社後、希望外の職種に配属されても、何事も好奇心を持って取り組む必要を感じております。また、前向きに取り組む、挑戦の心構えがあれば、必然的に道は開けると確信しております。

No. 22	出身校：A	科名：電子科	卒業年度：昭和63年度
	性別：男	年令：34歳	現住所：東京都
	業種：機械器具製造業		従業員数：250名

いま、どのような仕事をされていますか**今まで、どんな仕事を経験されましたか**

超音波ワイヤーボンダのハードウェア系を中心に担当しています。

今は、超音波ワイヤーボンダの搬送装置を担当しています。

超音波ワイヤーボンダの電氣的な調整を中心に行ってきました。また、シーケンサについては、ユーザーの多様なニーズに対応して来ました。一方、ソフトウェアなどは、書物などで独学で勉強してきました。

書籍の具体的な事例を参考に問題解決した

仕事上、どんな壁にぶつかったことがありますか

どのようにその壁を切り抜けましたか

超音波ワイヤーボンダ搬送ライン設計製造において、プログラミング上で、実際にそぐわないことが起きたときなど、先輩からのアドバイスを心得て仕上げました。また、仮の立合いトラブルが発生したが納品までに、先輩のアドバイスでトラブルを解消させました。一方、海外出張9回のメンテナンス、修理の経験が現在大いに役立っています。

制御技術課会議で、討議し解決していました。また、他課に係ることは、特に、ISO-9001がらみなどは、十分にコミュニケーションを計り、解決していました。

トランジスター技術は書籍の具体的な事例を参考に問題解決しました。

失敗の経験が、血・肉として、自分の技術を育てていきたい

将来どんな目標をお持ちですか

超音波ワイヤーボンダの搬送装置は、時代が高速化を求めているのでシーケンサを活用して要求に応えられるよう、また、メンテナンス性の良いものを開発したい。また、今迄の経験を生かしながら、装置の機能アップの開発をしたい。結果のみでなく、失敗の経験を、血・肉として、自分の技術を育てていきたい。

ハンダ作業資格取得を目標に学んでいます。

今後なにを学びたいですか

シーケンサ関連では、モーター制御として、リニアモーターなどを用いて、高速化に対応すること。ソフト、ハードウェア関連では、ソフト、ハードウェアを理解できる技術者として、レベルアップを計りたい。

短大生活で最も思い出深いものは何でしたか

レーザ系、カーブミラーの測定など、研究したこと。また、寮は二人一部屋で生活したこと。また、パソコンの勉強に熱中したこと。

言われた事以上のことに、チャレンジしてほしい

短大に対するご意見、後輩たちへのアドバイス、がありましたらお願いします

「習うより慣れろ」と言われるように、自分で経験することから始まります。「失敗しても良いからやってみろ。この仕事をして、命を取られる訳ではないから・・・やれよ」と言われた時から、失敗をおそれずやれるようになりました。言われたことを、100%こなすのは誰でも出来ますが、言われた事以上のことに、チャレンジしてほしいと思います。

No. 23	出身校：J	科名：電子技術科	卒業年度：平成5年度
	性別：男	年齢：28歳	現住所：石川県
	業種：半導体デバイス製造		従業員数：1830名

いま、どのような仕事をされていますか

また、どんな経験をされましたか

生産技術課設備開発係に所属しており、主に設備の設計・製作及び改造を担当しています。また、社内で実施している研修の“電気初級”の講師もしています。

入社してからの3年間は製造現場の検査・出荷工程に配属され、設備の修理・改造などを担当していました。その後、生産技術課に異動し製造設備のライン化、手作業の自動化業務に従事してきました。

「小谷賞」を3回受賞。 2級技能士 機械保全(機械)部門合格

仕事上、どんな壁にぶつかったことがありますか

どのようにその壁を切り抜けましたか

生産技術課に異動してからは、今までと全く違った仕事内容であり、機械製図というものをしたことがなかったということと、今までにない新しいモノを作っていかなければならない仕事だったので途方にくれました。

まずは自分で文献・資料などを見て参考にしました。それでもダメなら先輩に相談しました。さらに、それでも参考にならないようなら最終的には自分の頭で納得のいくまで考えました。

今までにあったものと同じモノは絶対に作らない

将来どんな目標をお持ちですか

今の職場での将来目標は、社内ではとても出来ないと言われてきたような設備の開発です。「そのような設備をどんどん開発していつか社内の設備が私の開発した設備だらけになる」と最高です。

また、仕事上の信念は、今までにあったものと同じモノは絶対に作らないということです。

実際に自分でやってみないと何もわからない

今までどのような研修を受けてきましたか

また、後輩にはどのように指導していますか

今まではほとんどが社内で受けた研修ばかりです。どんなに多くの指導・研修を受けても実際に自分でやってみないと何もわからないということです。だから、今後後輩に仕事上の相談を受けた時には、“まず、自分でやってみてそれでもわからなかったら聞きに来い”と言いたいです。

一から十まで教えてしまうと後輩は何も得ることが出来ないと思います。

今後なにを学びたいですか

今の仕事上の延長である金型の勉強をしてみたいです。

これが出来ない则将来の目標である「社内では出来ないと言われてきた設備の開発」は出来ません。

また、フォークリフト・ガス溶接・玉架け作業の講習を受けたい。

本当の親友を得た

短大生活で最も思い出深いものはなんでしたか

思い出はあまりありませんが本当の親友を得たということです。短大を卒業してからも一緒に遊んだり、相

談もしたり”いい関係”でいます。また、勉強とは別ですが、アルバイトを経験して働くことの厳しさを学ぶことも出来ました。

“ヤル気”のある人づくり

短大に対するご意見、後輩たちへのアドバイスがありましたらお願いします

短大では、専門知識を学ぶことはもちろん必要ですが、社会に出てからもやっていけるような、「ヤル気」のある人づくりをしてほしいです。就職してから“ヤル気”がないと全く立ちゆかないと思います。また、構想から製作までの一連の工程を体験するような「実践的な勉強」をやってほしい。

№. 24	出身校：K	科名：電子技術科	卒業年度：平成7年度
	性別：男	年齢：27歳	現住所：岐阜県
	業種：プリント配線板の設計、製造		従業員数：420名

プリント配線板の設計をしています

いま、どのような仕事をされていますか

また、どんな経験をされましたか

ユーザーから支給された回路図、部品表、機構図等を基にプリント配線板の設計をしています。入社して半月間設計から製造過程を研修し、その直後から現在に至るまで設計の仕事をしています。

仕事上、どんな壁にぶつかったことがありますか

また、どのようにその壁を切り抜けましたか

近年の高速化、低消費電力化に伴い外部からのノイズの影響を受けない、プリント配線板自身からノイズを放出しない設計が必要になってきています。

また、高密度になっていますので現状の仕様で問題がないか早期の見極めが必要になります。

自分で判断するだけでなくその分野に詳しい先輩に確認したり、ミーティングを開くなどしていろいろな意見を出し合って解決してきました。

お客様に対してアドバイスできるようになりたい

将来どんな目標をお持ちですか

いろいろなメーカーの仕事をやる機会があるので同じようなことがあった場合こちらからお客様に対してアドバイスできるようになりたいと思います。

新しい技術、ミスの起こしそうな内容などはワンポイントレッスンとして職場全員に教育されています

仕事に関する技術・技能・知識はどのようにして習得されましたか

CADの使い方や設計のノウハウを先輩方から教えて頂いたり、新しい技術、ミスの起こしそうな内容など

はワンポイントレッスンとして職場全員に教育されています。後輩にも更に自分の経験を踏まえて教育しています。

プリント配線板の設計・製造に関する検定試験も行われています。

今後も新しい規格や技術等が開発されると思うのでそれらに対して設計をするだけでなくそれらがどんな物に対して使われるのか、またその規格等についても勉強していきたいと思います。

短大生活で最も思い出深いものはなんでしたか

今の職場では共同作業という物はほとんどありませんがみんなで協力して完成を目指した学校祭は良き思い出となっています。

会社に入っても基礎的なことは大事

短大に対するご意見、後輩たちへのアドバイスがありましたらお願いします

先日学校にお邪魔させて頂いたときに仕事で使っているCADと同じCADが導入されていました。実践に近い勉強ができるので自分で覚えようという気になって勉強してほしいです。

会社に入っても基礎的なことは大事なので普段の勉強をがんばって下さい。

№. 25	出身校：B	科名：電子技術科	卒業年度：平成9年度
	性別：男	年齢：26歳	現住所：北海道
	業種：ネットワーク機器		従業員数：586名

いま、どのような仕事をされていますか

また、どんな経験をされましたか

私は、現在ネットワーク機器メーカーに勤務しております。私はシステムエンジニアで、お客様からの弊社製品に関する技術的な質問にお答えしております。弊社機器を使用し、システム構築を提供する代理店の方や、お客様からの製品の使用方法・設定等の技術的な質問に関する対応をしています。

私は短大校を卒業してすぐに人材派遣会社に入社しました。派遣先の会社にて監視カメラシステムの設計、機器の手配、見積り、機器設定等の業務を行ってまいりました。

文書作成の難しさに悩んでいます

仕事上、どんな壁にぶつかったことがありますか

また、どのようにその壁を切り抜けましたか

現在壁にぶつかっています。それは、文書作成の難しさに悩んでいることです。現在の仕事は、お客に合わせて文書を作成しなければなりません。決まった定型の書式に沿って文書を作るのではなく、お客様である代理店様のニーズに沿うように作らなければなりません。その文書に自分の全責任が掛かってきますので、会社として恥ずかしくないような文書をつくらなければなりません。それが非常に大変です。

現在格闘中ですが、以前は図や絵の入った自分にとって分かりやすい本などを参考にしていたのですが、現在はもっと内容を深く理解できるような本を読んで勉強しています。お客が納得するように文書を作らなければなりませんので、自分でも深く理解しないと書くことができないからです。

将来の目標はなんですか

私は現在の仕事についても追求していきたいと思いますが、S I (システムインテグレータ)もしてみたいと思っています。この仕事は、ユーザーからのニーズに沿ったシステムを構築する、いわゆるソリューションを実現する仕事です。将来、総合的なシステムの構築をする仕事をしてみたいと思っています。

英語力の必要性を痛感しています

仕事に関する技術・技能・知識はどのようにして習得されましたか

前の会社では、他業種の方に研修会を実施していただき、広い知識を身に付けるよう勉強をさせてもらいましたが、現在は新製品(新しい技術・機能)についての勉強会が実施され参加させて頂いております。

現在はネットワーク関係の勉強をしています。また、英語の勉強をしたいと思っています。外国の製品の説明書を読まなければならない機会がよくあり、英語力の必要性を痛感しています。

短大生活で最も思い出深いものはなんでしたか

卒業研究でC G I (Common Gateway Interface)の学習コンテンツを作成して、ブラウザの画像やタグの構造を理解していたので、現在の仕事で非常に役立っています。また、WordやExcelが自由に使うことができ、就職したとき非常に役に立ちました。当時はまだ、現在ほど普及していませんでした。

資格をとるという目的があるので、勉強ができますし、就職してから役に立つ

何かご意見、アドバイスがありましたらお願いします

現在感じることは、学生時代に色々な資格を取れば良かったと思うことです。学生のとて電気工事士は取りましたが、もっと取っておけば良かったと思います。仕事に就くと資格をとるための時間が作り難くなりますし、就職先によっては資格により手当が支給される場合もあります。なによりも、資格をとるという目的があるので、勉強ができますし、就職してから役に立つと思います。

資格を取れるような支援をしてもらえたらよいと思います。

No. 26	出身校：V	科名：電子技術	卒業年度：昭和63年度
	性別：男	年令：34歳	現住所：長崎県
	業種：半導体設計開発・製造		従業員数：約6000人

いま、どのような仕事をされていますか

また、どんな経験をされましたか

MOS ICで新製品の電氣的評価をLSIテスターを用いて行っています。用途としては様々で、PS2用、CD-ROM用、TV、Camera、携帯電話、Felicaなどです。

大きなプロジェクトとしては、PS2用のGSの開発に携わりました。あとはTV、Video、Tuner、CD/MD/DVDなどの信号処理系のBip IC開発をメインに行っていました。

仕事上、どんな壁にぶつかったことがありますか

また、どのようにその壁を切り抜けましたか

PS2用のGS開発時は、世間へのインパクトが大きく日程を遅らせることは許されない状況の中で進めねば

ならず非常に肉体的にも精神的にもきつかったのを覚えています。

過去に事例がないため参考にできるものは無い。そういう状態であり第一人者として業務を進めていかねばならず、メーカー等へ参考程度に聞くぐらいでした。

あとはカット&トライの繰り返しでしょうか。

将来どんな目標をお持ちですか

今後の IC のトレンドを見ても分かるとおおり、マルチなカテゴリー（高周波、バイポーラ、CCD、MOS）における測定・評価エンジニアを目指したいです。

何が目的か？何が OUTPUT となるのか？

後輩にはどのように指導していますか

やることに対して何が目的か？何が OUTPUT となるのか？を踏まえて業務を進める。

また、何か説明する時は、データをもとに行い、グラフ化できるものは行う。ということを行っています。（そのほうが見ても理解しやすいので）

なにを学びたいですか

マネージメント能力です。

短大生活で最も思い出深いものはなんでしたか

実習が多かったのとレポートが大変だった記憶があります。あとは寮生活が環境的に辛かったという思い出があります。

何でも興味を持ち、聞くことを恐れず、苦勞を惜しまず

短大に対するご意見、後輩たちへのアドバイス、がありましたらお願いします

理論も大事ですが、まずは実践（実習）で不思議に思う または疑問に感じたことをデータを見て、理論と照らし合わせる。その繰り返しで納得し次の STEP を踏む。というスタンスで学習することを薦めます。実習のレポートを期限どおりに出すことは重要ですが、まずは基本を理解して、目的と結果を予想しながら実習を行い理解を深める ということでしょうか。

何でも興味を持ち、聞くことを恐れず、苦勞を惜しまず何事も取り組んでもらいたい。

№. 27	出身校：A	卒業科：電子技術科	卒業年度：昭和 59 年度
	性別：男	年令：37 歳	
	業種：計測制御機器	従業員数：28 名	

現在までの職務をお聞かせください

入社当時は従業員 60 余名おり、計測・制御・メカトロの 3 部門制でした。

製造分野で最初の仕事は大手メーカーの赤外線センサ（特化型）でした。3 年目頃、ダーメイド業務としては、依頼企業との打合せ・企画・設計・納品・研修までの一連の兼務を行っていました。8 年目頃、管理職（課長）＋物作り（企画開発）を担当していました。13 年目頃、3 部門の統合・製造部の中国進出をしました。16

年目頃、取締役・物作りの現場との兼務：要望により新設しました。

会社以外の多くの仲間とともに交流し議論すること

どのような仕事をしてきましたか

インパルス巻き線試験機の設計製作をしました。世界的に誇れる試験機と自負しています。開発当初の機器は、試作段階でのノイズは、問題になるほどの程度ではなかったが、製造ラインに載せるため仕様として、基板の位置や配線の引き回しなどの変更により増加したと思われるが、ケースが鉄板製であり、シールド効果により外部への影響がなかった。

その後、小型化・軽量化・高精度化にむけ、ケースをプラスチック・アルミ製・搭載CPUも8ビットから16ビットとなり、ノイズが発生しやすい状況になり、輸出等に大きな問題となった。

これらの数々の課題をクリアするために個人的に文献調査や専門書の解説など短期間ではとうてい無理なことであったが、社外で知り合った仲間のコンサルタントを通して「某企業のOB」「某大学の教授」・同じ分野の技術者の紹介で知り合った方々の協力・専門的な技術的アドバイスにより短期間に問題を解決をすることができた。また、費用的にも各種の新規事業の開発等の支援制度をも活用した。

入社以来、どんなことも内部の先輩・社内の経験やノウハウを基本に解決してきたが、やはり会社以外の多くの仲間とともに交流し議論することの必要性を感じた。

会社に使われるのではなく、会社とともに歩んでいきたい

仕事に対しどんな考えをお持ちですか

自社の創立について考えないわけではないが、現在の会社の中で、企業家としての感覚、金銭と世の中に必要とされる製品の企画を養い、かつ会社の運営の状況も理解できる用に努力し、会社に使われるのではなく、会社とともに歩んでいきたい。

起業家としての必要な基礎的知識が得られる学科目を取り入れてほしい

後輩へのアドバイス・助言をおねがいします

中小企業においても製造方式が変わり、従来の在庫蓄積方式から、コストダウンと短期間の製造の必要性から、部品等を含めた中で在庫をなくし、必要の都度必要な部品を納入する方式となった。したがって、新製品の企画にあたり、製品開発だけでなく部品調達計画、製品納入・検査および研修などまで含めた知識・金銭感覚が必要となる。

一方、製造分野は人件費の安い中国など海外に進出しているとともに、中国では性能は別としても、模造品が横行している。したがって、性能での絶対的な優位性を確保する上で、新しい方式・新部品の積極的活用・そのための新製造技術を積極的に模索していくための知識を得るための努力の必要性を感じる。

また、学校においても、起業家としての必要な基礎的知識が得られる学科目を取り入れてほしいと思います。

No. 28	出身校：H	科名：無線技術科	卒業年度：昭和54年度
	性別：男	年齢：43歳	現住所：富山県
	業種：電子電気機器製造		従業員数：341名

いま、どのような仕事をされていますか

自社製品の特定ユーザー向けマイナーチェンジ設計業務のマネジメントおよび全社の安全規格対応業務のマネジメントおよび実務を行っています。

特定ユーザー向けのカスタム仕様の電源設計、当社オリジナルの標準電源の設計、社外クレーム対応、ユーザーからの技術問い合わせの対応などです。

仕事上、どんな壁にぶつかったことがありますか

どのようにその壁を切り抜けましたか。

新製品開発時には多くの壁がありましたが、中でも印象に残っているのは、入社間もない頃、当社標準品の設計でプリント基板の設計をしておりましたが、ある決められた大きさに部品が収まらず、非常に多くの時間を費やしたことがありました。

上司に相談し、アドバイスを受けながら仕事をすすめました。

将来どんな目標をお持ちですか。

他社の追随を許さない商品の開発をしたい。

マン・ツーマンで教えています

仕事に関する技術・技能・知識はどのようにして習得されましたか

OJTによる実際の仕事では、実際の業務遂行の方法などについて、新入社員一人一人に先輩社員をインストラクターとして付け、職場のルールから実践の仕事(日常の業務)までマン・ツーマンで教えています。

社内QC教育や社外QC教育では、QCについての基礎、実践を学びます。社内QC教育については、昇格などの必須条件として定めています。

通信教育については、社内のOJTなどでは吸収できない専門知識の習得や、広く世間の状態を知るための教育を行っています。一部の通信教育は、昇格の要件としています。

各種セミナーについては、自分の専門分野の情報収集や、業務遂行上必要なセミナーに出席しています。自社では、外部講師を招いてのセミナーや各種団体からの情報を入手し社内へ案内し、必要に応じ後輩に参加を指示しています。

今後なにを学びたいですか

組織を動かすという意味でのマネジメントについて学びたいと思います。

卒業生同士のつながりをもっと深めたいと思います

短大に対するご意見、後輩たちへのアドバイスがありましたらお願いします

学生数が少なく、内容の濃い授業を受けられたと思います。設備については、いろいろ要求も変わりますので難しいと思います。

授業科目については、英語特に技術英語やプレゼンのテクニックなどがあれば良いと思います。

同窓会などを通し、卒業生同士のつながりをもっと深めたいと思います。

No. 29	出身校：F	科名：情報技術科	卒業年度：平成12年度
	性別：男	年齢：22歳	
	業種：ソフトウェア技術		従業員数：22名

あなたはどんな仕事をしていますか

プログラムの設計、構築の仕事を主に行っています。具体的には、業務系の管理システム等や、Linux用ネットワークカードのドライバ等の構築まで幅広い分野を扱っています。これらは、店頭で販売しているものではなく、ほとんどがお客様の要望に沿ったオリジナルのものです。受託した仕事は、プロジェクトと呼ばれるグループで開発、構築されていくのが一般的です。現在、私はネットワークカードのLinux用ドライバ及びネットワークカードの、ファームウェアやドライバの診断を行うテストプログラム構築も、プロジェクトの一員として開発しています。テストプログラムとは、評価対象に対して、正しく制御されているかどうかを判断するプログラムです。許容範囲を超えた情報を送信したり、異常となる情報を送信した際に、ファームウェアがダウンしないか、または、想定している情報を渡してくれるか、ドライバに対しては、OS側でパニックなど発生しないか等の診断を行うために使用する初期段階のプログラムです。このプログラムはファームウェアやドライバが提供される時点で用意されていなければならない、プログラム構築期間は一般的なプログラムと比べると非常に短いのが特徴です。

また、こうした仕事以外にも、新人教育や自社のサーバの管理も行っています。

自社で作成したものの品質が高くなければ信頼をなくしてしまいます

今までの仕事の上で、どんな壁にぶつかりましたか

どのようにその壁を切り抜けましたか

受託開発では、一からプログラムを構築するものとは別に、委託企業の所有するプログラムを、機能を追加するなどの目的で改造・修正することがあります。

私がぶつかった壁は、後者の開発で発生しました。現在行っているプロジェクトの前に Solaris という OS用のテストプログラムの改造を手がけていました。改造といっても、もともとのプログラムは弊社ではなく、他社で構築されたものでしたので、改造するにあたって、そのプログラムが実行している処理を仕様を見比べながら調査します。調査後、該当する関数や処理を変更後の仕様に添う形に修正していきます。私も含めたプロジェクトでは、その解析中に仮引数が非常に多い関数がたくさんあり、解析する期間内に全てを把握することが不可能になってしまいました。私もプログラマーの端くれではありますが、はじめて見る仮引数の数の多さに驚き、このままでは予定期間内に改造が完了しないと判断しました。すなわち、このまま改造をしても品質を保証できないものでした。

他社で作成された製品も、改造すれば自社で作成したものになります。当然、自社で作成したものの品質が高くなければ信頼をなくしてしまいます。それを防ぐためにはどうすればよいかを考えました。答えはプログラムを作り変えてしまうことです。プログラムをかじっている人にとっては、無謀なことといわれるかもしれませんが、しかし、品質を保証できない以上、今のプログラムを継続することは危険です。

こうした結論に達してから、プロジェクトのリーダーである上司に調査結果を報告し、現状で改造すると品質の保証はできないこと、改造ではなくこれらを基に自分たちでプログラムを作成するべきだということを意見答申しました。上司はこの意見を認めてくれました。これを受けて、仕様を基に再構築し、新しいプログラム作りに取りかかり、無事完了しました。

上司に報告相談する時に、変な見栄を使っても意味はありません。むしろ、正直にありのままのことを報告したほうが、時間の短縮になります。

早く「一人前」になりたい

今、あなたはどんな目標を持っていますか

仕事上の夢といっても難しいので、仕事上での目標として早く「一人前」になりたいと思います。どんな職業にも「一人前」という言葉は必ず出てきます。私たちにとっての「一人前」とは、仕事を取る、設計をする、物作りをする、納品をするという一連の流れを一人でできるようになった人のことを言います。もちろん一人で全部の作業を行うというのは内容によっては難しいことなので、部下に指示をすることも必要になります。入社3年目の私は、まだ上司からの指示を受け設計をする、物作りをする、という仕事しか行っていません。まだまだ一人前とは言えませんし、そもそも、一人前になったのを判断してくれるのは上司であり先輩であって、自分ではありません。いまだに、凡ミスを犯して注意を受けることが度々ありますが、もっと勉強して、私自身が後輩に指示ができるように頑張りたいです。

バグが出ないプログラムを構築する

あなたの仕事に対する考えをお聞かせ下さい

仕事に対してのポリシー・信念は、仕様通りに物作りをすることです。当たり前のことかもしれませんが、一番難しいことだと思います。もちろん、仕様に抜けが無い完璧なものであれば問題ありませんが、細かい部分では仕様にも抜けがたくさんあると思います。それらを、レビューを基に一つ一つ確認していき、勘違いや誤っている部分を修正し、少しでもバグが出ないプログラムを構築することを心がけています。

また、休める時に休むということも大切です。これは、業種にもよりますが、私たちのようなプログラマーの場合、毎日同じ仕事をしているわけではありません。またスケジュールも非常に忙しい期間とそうでもない期間があります。忙しい時は寝ている時間も惜しいくらい時間にナーバスになってしまいます。それだけ体力も失われてしまいます。そのため、時間に余裕があるときは休むようにしています。私の会社ではフレックスタイム制で勤務しているので、朝10時に出勤して午後2時に退社することも可能です。休める時にしっかり体調と気力を整えて、忙しい時にそなえるように心がけています。

新しい技術や資格等をぜひ取得してほしい

あなたの後輩達へのアドバイス、助言をお願いします

社会人になると、自分の時間というものが限られてしまいます。もちろん、自分のやりたい仕事があったとしても、当分は上司からの指示に沿っての仕事になります。慣れるまでは、時間が思うように取れないので、資格を取得したり、新しい技術を勉強する時間がなくなってしまいます。そこで、学生さんには学生時代に新しい技術や資格等をぜひ取得してほしいです。社会人になって資格を取るより学生時代の方が取りやすいですから。

№. 30	出身校：K	科名：情報技術科	卒業年度：平成9年度
	性別：男	年齢：26歳	現住所：愛知県
	業種：ソフトウェア開発		従業員数：210名

いま、どのような仕事をされていますか

主に制御基板やIF基板に組み込むアプリケーションなどのソフトウェア開発を行っています。

その他に Visual C++言語や Visual Basic 言語などを使用して Windows 上で動作するツールなどの作成や、設計書や解説書などドキュメントの作成を行っています。

今まで、どんな経験をされましたか

入社して約 2 ヶ月間の研修があり、その後ソフトウェア開発の部署に配属されました。

最初の 1、2 年は Windows 上で動作するツールの作成やドキュメントの作成を主に行っていました。その後、制御基板や IF 基板のアプリケーションやドライバの作成などの組み込みプログラミングを徐々に行うようになりました。

ハード図面の見方が分からなく苦労しました

仕事上、どんな壁にぶつかったことがありますか

どのようにその壁を切り抜けましたか

今まで Windows 上で動作するソフトウェア開発の経験しかなく、組み込みアプリケーションは、初体験でした。

組み込みアプリケーションを作成するためにはハード図面を見なくてはならず、最初はハード図面の見方が分からなく苦労しました。また Windows のプログラミングと違って、使用できるメモリ領域が限られていたり、ハードウェアの初期化が必要だったりと始めての事ばかりで苦労しました。

また、新規基板のソフトウェア開発を行ったとき、ハードウェア初期化手順に間違いがあり正常動作しなかったのですが、それに気付くまでにとっても時間が掛かったりしたこともあります。

組み込みプログラミングやコンピュータにとっても詳しい知識と技術を持った先輩に、問題点や疑問点を相談したり、時には助けてもらったりしました。

そのときの知識や技術、テクニックなどを吸収し次からは自分で解決できるように努力しました。

技術や知識を少しでも自分のものにできるよう行動したい

将来どんな目標をお持ちですか

夢 … Visual C++言語や Visual Basic 言語以外に、Web 関連の HTML 言語や Java 言語など新たな言語を覚え、使いこなせるようになりたいと思っています。

抱負 … コンピュータの業界は日々新しい技術や言語がでてきます。その技術や知識を少しでも自分のものにできるよう行動したいです。

仕事に関する技術・技能・知識はどのようにして習得されましたか

入社すぐの研修期間には Visual C++言語や Visual Basic 言語の研修を受け、その後 Java の研修を受けました。2 年くらい前に MCP (マイクロソフト認定技術者試験) を受け、Supporting and Maintaining a Microsoft (R) Windows NT (R) Server 4.0 Network を取得しました。

今後なにを学びたいですか

自分の興味のある Java や ASP、XML などの Web 関連の技術を学びたいと思っています。

短大生活で最も思い出深いものはなんでしたか

他科問わず 8 人くらいで毎日お昼休みや放課後にグラウンドでサッカーをやったことです。夏は汗だくだくでボールが見えなくなるまでやっていました。とても楽しい時間でした。

また、寮生だったので、同じ寮生を通じて友達が沢山できました。今でも皆で集まったりしています。

就職活動に早くから取り掛かり、力を入れて活動して欲しい

短大に対するご意見、後輩たちへのアドバイスがありましたらお願いします

一人一台のパソコン、十分な実習環境、贅沢な環境で授業ができ幸せだなと思っています。

専門課程の生徒は、応用課程が出来たことで進学と就職の選択に迷っている生徒が多いのではないのでしょうか？できるだけ早く自分のやりたい方向性を見つけ、就職すると決めたなら就職活動に早くから取り掛かり、もともと力を入れて活動して欲しいなあと思っています。

（自分が行動派だったこともありますが、グラウンドが狭くなってしまって残念です。）

No. 31 出身校：D 性別：男 業種：研究・教育	科名：情報システム科 年令：33歳	卒業年度：平成2年度 現住所：石川県 従業員数：300名
--	----------------------	------------------------------------

聴覚特性を考慮した信号処理モデルの実現に取り組んでいます

いま、どのような仕事をされていますか

情報科学研究科にて、研究・教育の仕事に携わっています。研究は、主に聴覚機能の計算モデル化（ケンブリッジ大 CNBH 所長 Dr. Roy D. Patterson と和歌山大 入野俊夫教授との共同研究）ならびに聴覚特性を考慮した信号処理モデルの実現に取り組んでいます。教育では、北陸先端大が独立大学院ということもあり、大学院生（修士、博士）の研究指導にあたっています。現在は、博士後期課程の学生4名、前期課程の学生10名の研究指導にあたっています。

「聴覚の計算理論に関する研究」に従事し博士号（情報科学）を取得しました

今まで、どんな仕事を経験されましたか

〇〇職短大卒業後、1年間、株式会社〇〇〇システムズにてシステムエンジニアとして勤務、特許庁 JAPIO に出向し、特許ペーパーレス計画（電子出願等）のシステム開発の仕事に携わりました。その後、職業訓練大学校情報工学科に編入学し、北陸先端科学技術大学院大学にて、「聴覚の計算理論に関する研究」に従事し、博士課程を修了とともに、博士号（情報科学）を取得しました。その後、ATR 人間情報研究所客員研究員として一年間、英国ケンブリッジ大学生理学部 CNBH 客員研究員として一年間、滞在し、聴覚末梢系における計算モデル化の研究に携わりました。そして現在にいたっています。いずれも「聴覚機能の計算モデル化」という研究テーマに関して、かれこれ8年間、取り組んできました。現在も継続して取り組んでいます。

仕事上、どんな壁にぶつかったことがありますか

研究という仕事柄、道のない状態から道をつくるわけですから、いつでも何らかの問題（壁）と直面します。今まで経験した大きな壁というと、2年間位取り組んでもなかなか前進できなかった研究課題ですね。あとは外国人研究者とのコミュニケーションだったと思います。後者の方は、語学をちゃんと勉強すれば解決できるんですけどね。

遠回りに見えても本質を捉えていれば、正攻法で考える

どのようにその壁を切り抜けましたか

研究という仕事から、一人で苦しみ、そこから抜け出さなければならないことが多々あります。そんなときは、一つの方向から眺めるのではなく、多角的に眺めてみると案外簡単に解けることがあります。壁が実際は壁でなかったり、厚さも実際うすっぺらいものだったりとか。でも、とてつもなく分厚い壁にもぶつかることがあります。これは論文を書くようなテーマを見つけ、それを解こうとするときだったりします。あれこれ一人で考えたり、他の研究者とディスカッションしたり、失敗を繰り返したりしますが、経験的に遠回りに見えても本質を捉えているものであれば、そこから正攻法で考えるようにしています。案外これが解決の近道だったりします。

将来、どんな目標をお持ちですか

国際色が強く、各研究員の目的意識が高い、そんなメンバーが集まった自分の研究室をもって、毎日、研究だけに没頭できる生活をおくりたい、こんな目標をもってしています。

教えることも勉強

仕事に関する技術・技能・知識はどのようにして習得されましたか

独学あるいは、自分でゼミを開き、知識を習得するように努めています。経験的に、受身で勉強しても習得し難い面があるので、自分が講師となって教えることで、自分も勉強し、知識を得るという形をとっています。教えることも勉強ということでしょうね。

内容や分野は、ほとんどが専門(情報科学に関する最新技術など)になりますが、自分がやることに對して、必要に応じて内容などを選択しています。

「教官の教育に対する情熱」と「学生の能力を伸ばそうとする体制」

短大に対するご意見、後輩たちへのアドバイスがありましたらお願いします

一言で、良かった点は「教官の教育に対する情熱」と「学生の能力を伸ばそうとする体制」、欠けている点は「詰め込み教育(知識の詰め込み)のため、考えるという能力を磨き難いカリキュラム」です。設備等はほとんど関係ない気がします。自分も教育者として、このようにはっきりと書くのは恐縮ですが、今、振り返ってみるとこのように思います。2年間という短い期間で何ができるか、ということを見ると、「欠点を補い、何でもできる人を育てる」ということよりも「良いところを伸ばしてあげ、何か一つでも誰にも負けないような力をつけさせてあげる」ということの方が何事よりも大事なような気がします。

何事においても、失敗を恐れずにトライしてください。失敗は成功のもとだと思います。

№. 32	出身校： J	科名： 情報処理科	卒業年度： 平成 9 年度
	性別： 女	年令： 25 歳	現住所： 石川県
	業種： ソフトウェア開発		従業員数： 246 名

いま、どのような仕事をされていますか

今まで、どんな仕事を経験されましたか

C++やVisualC++などのプログラミング言語により、ソフトウェア開発をしています。給与計算や伝票入力などで利用できる電子帳票開発ツールを作成しています。

一番長く経験している仕事は、現在行っている帳票開発ツールの作成です。その他には、ソフトウェアパッケージへのFTPツールの組み込みや、商品のオンラインドキュメントの作成などです。

先輩方に報告、相談することでフォローしてもらっています

仕事上、どんな壁にぶつかったことがありますか

どのようにその壁を切り抜けましたか

インターネットの技術文書であるRFCを読み、仕様を理解する必要があったが、英語が苦手で読むのに大変苦勞し、仕事を遅らせてしまいました。

先輩にRFCの日本語訳を公開しているHomePageや、翻訳Pageなどを教えてもらい翻訳し、つながらない所は、辞書で調べて理解することができました。仕事上での失敗などは先輩方に報告、相談することでフォローしてもらっています。

自分から積極的に意見、提案を行えるようになりたい

将来どんな仕事上の目標をお持ちですか

今は自分のやるべき仕事をきちんとこなせるようになり、グループミーティングなどでも自分から積極的に意見、提案を行えるようになりたいです。

仕事に関する技術・技能・知識はどのようにして習得されましたか

社内研修での言語（C、C++、JAVA）や仕様書の書き方、OJTで先輩からの指導を受け専門知識の勉強をしています。また、資格取得（基本情報、XMLなど）に向けて勉強しています。

ネットワーク、データベース、セキュリティ分野を学びたいです。

特にセキュリティについては、情報漏えい問題など会社でも重要な課題となっています。

短大生活で最も思い出深いものはなんでしたか

卒業研究では初めてVisualBasicを使用して、自由に研究させてもらいました。

また、地域のバレーボールやソフトボールの大会に参加したことです。

学生自らで考える力を養えるような工夫

短大に対するご意見、後輩たちへのアドバイスがありましたらお願いします

授業の課題などでは、学生自らで考える力を養えるような工夫をされるといいと思います。

就職活動は早めに行動した方がいいと思います。たくさんの企業を見ることもでき、早めに内定をもらおうと卒業研究などに打ち込む時間が多く取れると思います。

<p>No. 33 出身校：R 科名：情報処理科 性別：男 年齢：28歳 業種：システム開発と構築</p>	<p>卒業年度：平成6年度 現住所：島根県 従業員数：132名</p>
---	---

いま、どのような仕事をされていますか

今まで、どんな仕事を経験されましたか

システムエンジニアとして、主にネットワーク導入に関する業務を行っています。

作業内容としてはネットワークシステムの設計、導入、サポートまでの一連業務です。

対象顧客は自治体、学校、一般企業など特に業種に関係なく対応しています。

ネットワーク導入の一部として、ネットワーク関連のサーバ（Web、メールなど）の導入、運用などの業務、プロバイダー開設支援、構内LAN導入支援、業務アプリケーションの開発（情報提供業：データ管理、公開システムなど）

ユーザーの立場に立ってみることも大切だと感じました

仕事上、どんな壁にぶつかったことがありますか

どのようにその壁を切り抜けましたか

多々あります。

あるプロジェクトでは、システム設計段階で顧客要件を把握しきれず、打合せを重ねても中々進展せず、一歩前進一歩後退などを繰り返したことがあります。

よく考えること、よく我慢すること、よく勉強することで、ある程度乗り切れたと思いますが、まだまだです・・・。

自分自身もユーザーの立場に立ってみることも大切だと感じました。

また、上司などの精神面等でのサポートも非常に力になりましたが、今後は学校との連携なども考えたいと思います。

今後の目標はなんですか

情報システム導入におけるコンサルティング業務（特にネットワーク導入や情報セキュリティに特化したもの）や顧客、社会に有用なサービスの提供です。

適切なアドバイスが行えるよう常に心掛けるようにしてます

今までどのような研修を受けてきましたか

また、後輩にはどのように指導していますか

会社では〇〇〇主催のものなど、各種外部機関主催の研修に年に数度参加することが可能であり、必要に応じて参加しています。

また、社内においても随時勉強会が行なわれていますので参加したりしてますが、できれば学校のセミナーなども受講したいと思います。

取得資格（情報処理技術者）第二種・第一種、ネットワークスペシャリスト、データベーススペシャリスト、情報セキュリティアドミニストレータ、システム監査です。

後輩への指導については、社内では特に指導を行うような立場ではありませんが、一緒にプロジェクトを行う後輩には、技術面などでの適切なアドバイスが行えるよう常に心掛けるようにしてます。

今後なにを学びたいですか

ネットワーク導入、セキュリティに関する設計、導入など

短大生活で最も思い出深いものはなんでしたか

詳細はあまり覚えていないのですが、先生、学友とも皆いい雰囲気楽しく過ごせた印象が残っています。

また、クラブ活動で空手をやれたことは個人的には非常に大きな財産です。

学業については、もっと勉強すればよかったとは思いますが・・・。

先生や学校とのつながりの大切さを社会に出て感じます

短大に対するご意見、後輩たちへのアドバイスがありましたらお願いします

設備、授業内容ともに在学当時、特に問題を感じませんでした。

今思えば、実習時間が多かったこと、工夫する課題が多かったことがよかったです。

学生時代には基本をよく勉強しておくことだと思います。（働き出すと基本を勉強する時間がなかなか取れないので）

勉強も大切ですが、学生生活を思いきり楽しんでほしいと思います。

先生や学校とのつながりの大切さを社会に出て感じます。

また、SE希望の方に対してですが、SEは体力も必要ですので、できれば体を鍛えておいた方がいいと思います。

No. 34	出身校：R	科名：情報処理科	卒業年度：平成7年度
	性別：男	年齢：27歳	現住所：島根県
	業種：半導体 IC の製造		従業員数：155名

“社内のペーパーレス化”に取り組んでいます

いま、どのような仕事をされていますか

今まで、どんな経験をされましたか

役職は「技術課生産技術GL（グループリーダー）」で、主な仕事は、標準時間管理と生産システムの開発及び維持管理を行っています。

今年度は、工場長方針でもある、“社内のペーパーレス化”に取り組んでいます。

入社し6年経ちますが、入社当時は親会社で、生産技術の研修を1年間行いました。

帰社後は、研修の成果を発揮する為、生産技術（生産管理と作業改善等のシステム化）を手掛けています。

仕事上、どんな壁にぶつかったことがありますか

どのようにその壁を切り抜けましたか

福岡での研修の際、今まで実家や地元から出たことがなかった為、言葉使い、技術レベル、考え方の違い等を痛感しました。

持ち前の、ファイトですべてを乗り切った、と言いたいところですが、最後は上司や先輩方に手助けして頂いたのが事実です。

将来どんな仕事上の目標をお持ちですか

今まで学んできた、「生産技術」と「情報処理技術」を生かし、ランニングコストダウンや、自動化拡大等、大規模な統合型生産管理システムの開発や大改善・大改革をやり遂げたい。

自分の困った時の経験を思い出し、適切なアドバイスをする

今までどのような研修を受けてきましたか

また、後輩にはどのように指導していますか

研修：生産技術研修（一年間）

・後輩への指導

入社当時に比べ、若い新入社員が多く入って来ました。

そのなかには、高校や〇〇短大の後輩もいます。

指導と言える偉そうなことは行っていませんが、後輩が困った時などは、自分の困った時の経験を思い出し、適切なアドバイスをするよう心掛けています。

今後なにを学びたいですか

今の職種を気に入っており、今後もより競争力のある統合型生産管理システムの構築を推進したいと思っています。

その為にも、より高度な情報化技術を習得するため、今後も短大のセミナーや企業研修等に積極的に参加したい。

実行委員を務めた学園祭、無事終了した時の感動は深い思い出

短大生活で最も思い出深いものは何でしたか

随分昔になりますが、真っ先に浮かんで来るのは、自分も実行委員を務めた学園祭（翔江祭）です。一年掛けて準備し、当日前夜は、仲間と徹夜して、最終準備をした事を思い出します。無事終了した時の、あの感動は思い出深いものがあります。

積極的に就職活動を行って下さい、質問は多いにすることです

短大に対するご意見、後輩たちへのアドバイスがありましたらお願いします

現在は、私達の時代に比べもっと就職難で、これからは続くかと思いますが、くじけず、積極的に就職活動を行って下さい。

私も学生が当社に会社訪問に来られた際、工場案内をしますが、どんな些細なことでも、質問することです。

初めて来て見て聞いて分かるはずがないので、質問がないと対応する側はあまり関心がないと感じます。だから、質問は多いにすることです。

同窓会は、私が幹事ですが、ほぼ毎年、担任の先生をよんで実施しています。出席者はだいたい半数ぐらいですが、今後も継続するつもりです。

№. 35	出身校：D	科名：情報技術科	卒業年度：平成7年度
	性別：男	年令：27歳	現住所：青森県
	業種：公共職業訓練		

いま、どのような仕事をされていますか

また、どんな経験をされましたか

〇〇短期大学校で情報技術科の講師をしています。担当している科目は、C言語やJavaなどのプログラミング実習と、マイクロコンピュータ実習などです。

その他にも離転職者訓練、在職者訓練などを担当しています。

〇〇短期大学校に配属される前は、〇〇職業能力開発促進センターに勤務していました。そちらでは情報・

通信系に所属しており、離転職者訓練を2年、在職者訓練を1年、担当しました。おもに社会人を対象とした訓練を行っていました。

その後、母校である現在の職場に転勤になり、現在は主に学生を対象とした講義を担当しています。

新しい情報分野の情報を積極的に入手する

どんな壁にぶつかったことがありますか

また、どのようにその壁を切り抜けましたか

最初の1年間は、知識不足のため思ったように訓練を行うことができませんでした。周りの先生方との知識の差を強く感じて、色々と悩むことが多かったです。現在でも、よりよい良い仕事を行うために、目まぐるしく進歩する情報分野の内容を身に付けることがとても大変です。

知識不足に関しては、情報分野の内容を積極的に勉強し、情報処理技術者試験などの資格を取得することにより壁を切り抜けました。現在も新しい資格を取得するために勉強しています。その他に、情報関係の仕事についている短大時代の同級生と連絡を取り、仕事の現場で注目している新しい技術の情報を聞いたりするなど、新しい情報分野の情報を積極的に入手するようにしています。

将来どんな目標をお持ちですか

自分の専門分野に関してさらに知識を深め技術を身につけ、これからの仕事に生かして行きたいと思っています。

情報処理技術者国家試験に合格しました

仕事に関する技術・技能・知識はどのようにして習得されましたか

情報処理技術者国家試験では、第2種情報処理技術者試験、ソフトウェア開発技術者試験に合格しました。現在は、テクニカルエンジニア・ネットワークに挑戦しています。

先輩からは、訓練を行う際のアドバイス等を受けました。後輩に対しても、先輩から受けた指導を同じように行いました。

今後は、ネットワークの分野を深く勉強していき、それに関する資格等にも挑戦していきたいと思っています。

短大生活で最も思い出深いものはなんでしたか

自分は学生寮に入っていたので、寮生活がとても思い出深いです。学生寮で2年間共に生活した友人たちとは卒業した後も時々会って、学生時代の思い出や現在の仕事の話をしたりします。

卒業研究に関しても、同じように思い出深く、担当の先生は一生の恩師です。卒業してからも時々連絡をとり、現在でも仕事の相談などをしたりします。

短大に対するご意見、後輩たちへのアドバイスがありましたらお願いします

短大での2年間はとても充実した2年間でした。沢山の技術を身につけることができましたし、一生の友人も作ることができました。良い思い出も沢山作ることができました。

短大に入学してとても良かったと思っています。現在、短大に通っている学生やこれから入学する学生に対しても、同じように充実した2年間をすごしてほしいと思っています。

No. 36	出身校：U	科名：建設科	卒業年度：平成元年度
	性別：男	年齢：32歳	現住所：福岡県
	業種：総合建設業		

現場の作業所長になりました

いま、どのような仕事をされていますか

また、どんな経験をされましたか

コンクリート構造の一般住宅からビルの建設まで、幅広く手がけています。地場ゼネコン企業の中でも、優良企業と言われる企業です。

仕事は建設業と言うこともあり、仕事柄、建物を建て終わるまで、現場管理を主な仕事にしています。仕事内容としては、建設に係る資材の原価管理、工事の工程管理、施工面の品質管理と幅広く、仕事量も多いです。特に、顧客からの設計変更で、交渉能力、コミュニケーション能力が問われる重要な役職と思います。

平成2年4月に入社後、建築現場一筋に仕事をしています。入社後5年目までは、現場係員として、図面をにらみながら現場の職人の方々への施工指示、また顧客の設計変更に応えるよう変更箇所などの指示など、現場の最前線で働いて来ました。

その後は、所長代理を務め、現場全体の管理・把握をして来ました。その間、現場で所長の仕事ぶりを見ながら、自分なりに所長としての能力を培い、今年4月から現場の作業所長になりました。

現在は、多忙の毎日で、工事現場全体の進捗状況の把握、顧客や設計事務所との折衝と忙しく動いています。

自分がトップとなって、みんなに指示を与えて行かなくてははいけません

仕事上、どんな壁にぶつかったことがありますか

年中、壁にぶつかって来ました。今も壁にぶつかっています。

特に、最近、現場の作業所長を任されたことで、予算の管理、工程の管理です。自分の後ろに誰もサポートする者が居ません。自分がトップとなって、みんなに指示を与えて行かなくてははいけません。

また、建設スタートの際、近隣の住民の方々との話し合いにとっても気をつかいます。できうる限り、近隣の方々の要望を取り入れ、少しでも美しい地元北九州の町作りをしたいと考えています。

ですが、建設には予算も考慮しなくてはならず、地元の方々の要望をすべて受け入れない時もあります。地元の方々の気持ちを如何に引き出すか、コミュニケーション能力がとても必要です。

また、現場では、設計図面がないことを相談されたときなど、困ってしまいます。顧客様から途中で設計変更の要望が出ますと、できるだけ要望をかなえるよう努力しますが、決まった予算の中で工事をしますので、一旦大きな変更となりますと、職人の方達にも多くの時間と労力を費やしていただくこととなり、工事自体の工期も大きく変わってきます。ですから、変更ができる範囲と変更ができない範囲を、自分の心の中で明確にしています。断るときは辛いですが、仕方がありません。

私たちがこの会社を引っ張っていく

将来どんな目標をお持ちですか

私は今32才ですが、私より年上の所長は44才以上で、社内では年齢の段差があります。ですから、私より若い社員達を引っ張って行かなくてはいけない責任感もありますが、逆に、これから私たちがこの会社を引っ張っていくという楽しみもあります。

ですが一方では、今の会社のように大きな会社は持てませんでしょうが、やはり将来、自分の会社を持ちたいという夢は、当然あります。

失敗やミスへの悔しさを持って、次の仕事に挑んで欲しい

後輩にはどのように指導していますか

若い社員がたくさん働いていますが、給与をもらう以上、プロとして責任があります。現場では、ある1人の社員が70%の力で仕事をしたとしても、他の社員が100%の力で仕事をしてくれるだろうという訳にはいきません。他人が自分の仕事までカバーして仕事をしてくれません。社員1人1人が100%の力を発揮して仕事をしないと、建築現場では建物が完成していきません。

みんなが全力を出すから、建物が、ビルが完成します。

私の場合、そんな彼らが失敗やミスをして、それをカバーしてやらなくてはいけません。失敗やミスをした社員は、失敗やミスへの悔しさを持って、次の仕事に挑んで欲しいものです。

現場ではチームワークが大事です。

短大生活で最も思い出深いものはなんでしたか

私たちの学年は、全員男子ばかりで、後にも先にも男子だけの学年は私達だけでしょう。ですから、在学中は〇〇先生の設計図面の課題提出がとても厳しく、徹夜で図面を引くことも間々ありました。

当時は、徹夜してでも課題提出をするのは、当然のこのように思っていました。ですから、社会人になってからも、施工図面を翌日に現場に渡すときもあり、徹夜は当然という意識もあります。今は所長をしていますが、今も週に1晩は徹夜する時もあります。

№. 37 出身校：A 性別：男 業種：不動産事業開発業	科名：建築科 年齢：34歳	卒業年度：昭和62年度 現住所：東京都 従業員数：42名
---	--------------------------------	---

いま、どんな仕事をされていますか

また、どんな仕事をされましたか

企画設計、協力設計会社のアウトソーシング、工事監理をやっています。

良いと思ったことは何でもやってよいという社風ですので、自身発明の案件の特許出願もしています。

戸建住宅・共同住宅・事務所ビル・公共施設（研究所・病院・美術館）等の設計、監理をやっていました。

（事例）I 県立美術館実施設計

N 造形大学大学院棟実施設計

T 労災病院実施設計

K 医科大学病院実施設計

O 街区ビル実施設計

身の周りの整理と頭の中の整理を行う

仕事上、どんな壁にぶつかったことがありますか

どのようにその壁を切り抜けましたか

細かなことから大きなことまで、仕事とは常に「連絡」の連続で成り立っていることが多いのですが、相手の認識が違っていたり、話が通っていなかったり、来るべき連絡が来なかったりというトラブルは日常よくあります。

「我慢」と「慣れ」で切り抜けるしかありません。

同じ失敗を繰り返さないよう心がけるのはもちろんですが、常に複数の仕事をかかえているので、身の周りの整理と頭の中の整理を行うことは大切です。

不況が続いていますが、あなたの仕事の状況や見通しはいかがですか

小さな会社ではありますが、成長中です。でも常に新しいチャンスを意識していないと危ないと思います。シルバー住宅事業や不動産証券化のアレンジメントなども手掛けていますが、競合相手も当然いますので、いかに自社の特色を出すか、目の付けどころを意識しなければいけません。

将来、どんな夢をお持ちですか

土地や建物の価値や在り方を考え直す時代にいると思います。現在勉強中。建築や都市計画だけでなく、税務、財務、法務という分野の知識も身に付けて、トータルで管理できる人間になりたいと考えております。

自分のペースでやるべきことをやる

仕事に対する基本的な考えをお聞かせください

相手に迷惑をかけないように気を使いさえすれば、他は自分のペースでやるようにしています。何でも全力でやっている人など実際はいません。「自分のペースでやるべきことをやる」これが基本だと考えます。ただ何事も自分から動き考えるくせを付けておかないと、見捨てられる時代になっています。そういう人が集まっている会社は伸びますし、給料も伸びます。会社がどうなっているか、何をしなければいけないかを考えて、月に一度は自社の BS・PL には目を通すぐらいは若い頃からするべきです。

「ヒント」や「チャンス」や「引出し」が沢山ある

後輩たちへのアドバイス、助言をお願いします

自分が何をやりたいのか分からない人が多いようですが、仕方の無いことかもしれません。情報過多の時代は逆に考えれば「ヒント」や「チャンス」や「引出し」が沢山ある、とも言えますので周りに目を向けてください。

№. 38	出身校：A	科名：建築科	卒業年度：昭和 57 年度
	性別：男	年令：39 歳	
	業種：建設業		従業員数：160 名

いま、どんな仕事をされていますか

また、どんな経験をされましたか

専門工事業者（薦・土工）として、元請作業所等への営業・巡回による工事管理を行っています。薦・土工（土工・コン打設工事・鉄骨建方工事・足場工事等）について、元請の施工計画に参画し、その工事の見積もり・契約業務も行っていきます。

当社下請けが実質施工を行うので、その施工管理（原価・安全を含む）をやっています。

巡回により、安全管理指導もやっています。

千葉県富里町（成田市に隣接）のスポーツメーカー「〇〇〇社」の配送センターの施工に参加しました。

150万労働時間無災害を経験しています。（作業所内安全衛生協議会議長として）

1級建築施工管理技士を取得しました。（平成4年）

新規の元請業者2社を開拓しました。

技術力低下に対するフォローに苦労しました

仕事上、どんな壁にぶつかったことがありますか

どのようにその壁を切り抜けましたか

原価管理において、収支が乱れ、赤字工事を出してしまったことがありました。そのときは、複数作業所を担当していたので、全体の中の調整で勘弁してもらいました。

もちろん、繰り返さないよう、きつく指導されました。

また、元請担当者（若年者）の技術力低下に対するフォローに苦労しました。

元請業者幹部も含め、各担当者との対話を重視し、計画上の「落ち度」の無いようにしています。下請け業者にも同様の指導をしています。

淘汰されないための自力をつけなければなりません

不況が続いていますが、あなたの仕事の状況や見通しはいかがですか

個人的には忙しいです。施工上の「ムリ・ムダ・ムラ」を減らそうという意識のある人が、まだいるので、まだ、儲ける手段はあるように思います。

衣・食・住の「住」を扱っているわけだから、簡単にすたれる業種とは思っていません。

ただ、業者数が多いので淘汰はされるでしょうが、淘汰されないための自力をつけなければなりません。

将来、どんな夢をお持ちですか

「責任施工」との名の下に、専門工事業者の守備範囲が広がってきています。

その需要にいかに対応するかが重要です。会社は慎重であり、そこに歯がゆさがあります。

いかに人間関係をよくするかが大切

仕事に対する基本的な考えをお聞かせください

「会社が儲かって、はじめて給料がもらえる」ということが、あらためて大事だと思っています。

社員はそのための行動を行い、経営層はいかにその行動に報いるか。その信頼関係がなければ、会社の維持発展は望めません。

結局は、こび、へつらうことなくいかに人間関係をよくするかが大切だと思います。

「自分の商品価値」を意識すること

後輩たちへのアドバイスをお願いします

指示待ち人間にならないように。

「自分は何がしたいのか？」「自分には何ができるのか？」を常に自問自答すること。

各自で「自分の商品価値」を意識すること。

№. 39	出身校：C	科名：建築科	卒業年度：平成2年度
	性別：男	年齢：32歳	現住所：宮城県
	業種：建築現場管理		従業員数：830名

いま、どのような仕事をされていますか

建設現場において、総合的な現場管理を行っています。具体的には、下記に掲げる①～④の項目になります。

- ①工程管理：契約工期内にスムーズに建物を完成させます。全体工程表を作成し、各下請業者(約20社)の調整を図ります。
- ②品質管理：建物は、ほぼ100%同じではありません。まして、その土地によって、周りの環境条件等も違ってきます。その中で、高品質の建物を造るため、各種検査、計画等を行います。
- ③安全管理：各下請業者が、事故を起こさないように、仮設物の計画、維持を行い、「一人一人に、安全教育を行い、現場の事故防止に勤めます。
- ④施工図作成：契約図面に従い、実際現場で施工するための図面の作成を行います。

今まで、どんな仕事を経験されましたか

昭和17年、戦争が拡大する中で、国策として鉄道輸送力増強が必要となっていました。鉄道当局は、各鉄道局ごとに施工会社を設立することを決定し、東北においても、現在のJRのもとに、東北の指定業者120社を統合して、現在の当社が設立しました。それから現在に至るまで、鉄道関係の仕事が60%、官公庁17%、民間13%の割合で工事を発注しています。その中で、私が今まで携わった仕事は、鉄道関係を中心に下記の内容になります。

鉄道関係－駅舎、プラットホーム、駅構内店舗、ホテル
 官公庁－学校、情報センター
 民間－マンション、火力発電所

投げ出さず最後まで自分を信じ、やり遂げる

仕事上、どんな壁にぶつかったことがありますか

また、どのようにその壁を切り抜けましたか

この仕事を例えるなら、毎回、新製品を作っているようなものです。それも、完成予定のパーツが一枚あるだけで、加工図も何もないような感じです。そのような中で、現場で最も重要になってくるのが施工図です。下請業者への指示も、その施工図を元に行います。間違った図面を渡せば、違ったなりに当然出来上がってしまい、すべてやり直しになってしまう恐れがあります。いざ、自分で書かなければならない立場になった時、責任の重さに押しつぶされそうになった時期がありました。

それまでの経験と、会社の各先輩からのアドバイスにより、壁をいつの間にか乗り越ってしまいました。そして、一番重要なことは、投げ出さず最後まで自分を信じ、やり遂げることだと思います。

将来どんな目標をお持ちですか

建築物は、「住」という目的とは別に、「芸術」の意味も持っています。その末端で、仕事をしている自分を誇りに思い、そのような仕事に携わるにあたり、自分なりに感性を磨き、発注者・設計者に助言が出来るくらいに自分を高めていきたいと思っています。

仕事に関する技術・技能・知識はどのようにして習得されましたか

- ・IS09001をベースに、品質管理の手順
- ・一級建築士取得に向けた学習

- ・ 鉄道工事に関する各種資格の取得

今後なにを学びたいですか

これからの建設業は、公共工事の減少や民間投資の凍結により、莫大な受注減は免れないはずです。今まで培った技術を生かせる分野として、建造物のリフォーム、及び地震対策としての補強工事の分野を学びたいと思います。

仲間との協調性とか仲間の連帯感みたいなものを学習しました

短大生活で最も思い出深いものはなんでしたか

寮生活の一日一日が、私にとっては、新鮮で楽しい思い出でした。その中で仲間との協調性とか仲間の連帯感みたいなものを学習し、社会に出てもそれが生かされております。

短大に対するご意見、後輩たちへのアドバイスがありましたらお願いします

現場で使用する図面もほぼ 100%近く CAD での作成になっていますが、ほとんどの人が独学で学習しているのが現状です。学生時代に、ある程度学んでいれば、就職した時に役に立つと思います。

尚、CAD にも、いろいろ種類がありますが、現場で汎用的なのは JWW 又は AutoCAD のどちらかです。

№. 40	出身校：Z	科名：建築環境システム科	卒業年度：平成 10 年度
	性別：男	年齢：24 歳	現住所：山形
	業種：管工事業（建築設備）		従業員数：125 名

いま、どのような仕事をされていますか

建築設備の施工管理をしています。具体的には、ある銀行（支店）の新築工事の現場代理人を任されており、12月の竣工に向けて忙しい日々を送っています。施工管理とは、お施主さんや建築工事会社との打ち合わせ、CADによる施工図作成、現場のチェック（進捗状況や図面通り施工が行われているかなど）、ISOの書類作成や職人さん達との打ち合わせなど多岐にわたっています。また今日は、前の現場へ追加工事の打ち合わせにも行ってきました。

今まで、どんな仕事を経験されましたか

入社後すぐに、食品製造工場の現場に行き、主に施工図からの材料拾いと材料の手配を行いました。その後、温泉ホテルの改修工事、保育園の新築工事、薬品工場の増築工事、食品加工会社の本社及び物流センターの新築工事、温泉旅館の増築工事を経験しました。初めは、施工管理の補助員として工事写真撮りや墨出しをやっていたのですが、徐々に1人で現場を見る（施工管理をする）ようになりました。

メモもまめに取るようにして、うっかりミスを少なくしました

仕事上、どんな壁にぶつかったことがありますか

また、どのようにその壁を切り抜けましたか

新しい現場へ行く度に壁にぶつかっています。設備というのは、その建物の用途や規模などによってシステムが違うので、いつも新しいことへのチャレンジということになります。また、経験が大変重要な業種でもあ

り、いろいろな現場を経験していくことで知識を深めることとなります。経験不足のために、図面が不備で職人さんに怒られたり、段取りが悪くて材料が入らなかったり、迷惑をかけたことがたくさんあります。忙しさに、打ち合わせがあることをすっかり忘れたこともあります。

根本的な解決は、やはり経験を積んでいくしかないと思います。しかし、図面の不備については、職人さんに渡す前に必ず上司や先輩のチェックを受けるようにしました。また、週に一度は必ず打ち合わせを行って仕事の確認をすることにしました。メモもまめに取るようにして、うっかりミスを少なくしました。

「また一緒にやろう」と言われるようになりたい

将来どんな目標をお持ちですか

幅が広く奥の深い建築設備について、早く何でも分かるようになりたいです。また、人間関係において、一度お付き合いさせていただいたお客様から再び仕事がもらえるようになりたいし、現場と一緒にやった職人さんからも「また一緒にやろう」と言われるようになりたいと思います。日頃の仕事では、やり直しやクレームの無いように心がけています。1級管工事施工管理技士や消防設備士の資格も取りたいと思っています。

自分で良いところを盗み自分のモノにしなければなりません

今までどのような指導を受けてきましたか

上司や先輩と現場をやっていたときは、それこそ何をするにも常に学んでいると言えると思います。後ろを付いて現場内を見回っているとき、施工図を書いているとき、打ち合わせに立ち会ったとき…など。この業界の仕事は、よく「見て盗め」と言われます。図面にしても、書く人によって違った図面が出来るなど、答えは1つではありません。だから、いろいろな方の図面を見て、自分で良いところを盗み自分のモノにしなければなりません。そういう意味で、毎日が勉強です。

会社においては、ISO改訂時やCAD導入時にそれぞれの研修会がありました。また、短大校で「2級管工事施工管理技士」資格取得の講習が開かれており、受験時には週1回仕事が終わってから（19:00～21:00、計15回）参加しました。毎日の仕事に追われて、1人ではなかなか勉強できない中で「行かなければ。やらなければ」という気持ちを起こさせてくれました。

今後なにを学びたいですか

とにかく、新しい現場へいけば、新しい（初めてやる）設備システム・方式が待っています。それらを全て学びたいと思います。

技能五輪全国大会（配管職種）へ出場し、優勝したことに大変満足しています

短大生活で最も思い出深いものはなんでしたか

2つあります。1つは、卒業研究です。とにかく一生懸命やりました。気の合う担当の先生と興味のあるテーマについて、毎日遅くまで徹底的に取り組みました。その成果を学会で発表したことは良い思い出です。

もう1つは、技能五輪全国大会（配管職種）への出場です。卒研と重なって大変でしたが、自分のやり方を見つげられたこと、また結果を出せた（優勝）ことに大変満足しています。

卒業研究はやりたいことを自分で決めて、今までやったことがないぐらいやれ

短大に対するご意見、後輩たちへのアドバイスがありましたらお願いします

短大に対しては、上手く言えませんが、設備の基本（配管やダクトの約束など）をもっとやってほしいです。施工法になるのでしょうか。また、建築の流れや作り方も自分はわかっていませんでしたので、そのへんも必要だと思います。

後輩へは、とにかく「学生生活を謳歌してくれ！」です。短大では、なかなか時間がありませんが、みつけて遊んで下さい。建設業は、毎日が忙しくて時間がありません。それから「卒業研究はやりたいことを自分で決めて、今までやったことがないぐらいやれ」と言いたいです。

No. 41	出身校：E	科名：住居環境科	卒業年度：平成6年度
	性別：男	年齢：28歳	現住所：青森県
	業種：不動産補償		従業員数：25名

今まで、どのような仕事をされましたか

卒業と同時に、設計事務所に就職し、設計や建築に係る各種申請代行業務を経験し、都合により退社しました。次に、工務店で大工見習いなどをしながら、一級建築士資格を取得しました。その後転職し現在、道路工事や河川工事などの公共工事に、支障となる建物等の移転補償金算定業務を担当しています。

仕事上、どんな苦労したことがありますか

また、どのようにその壁を切り抜けましたか

一業務につき5～10棟位の積算を、2,3ヶ月の納期をいただいて報告書として完成していますが、いつも納期に追われて、ほとんど毎日残業しています。

特殊な建築機械設備等の査定にあたっては、専門業者に協力いただき一緒に調査をしています。

また、道路設計の担当者や測量を実施した業者と打合せをして、被補償者に納得していただける設計を行い、それに見合う補償金を算定しています。

将来、どんな目標をお持ちですか

もっとより多くの知識を身に付けて、町政や県政に参加したいと思っています。

仕事に関する技術はどのようにして習得されましたか

上司や前任者からも教えていただくことも多いですが、実際に仕事をこなしながら関係資料をもとに勉強しています。

実習がおもしろかったし、今でもその経験が仕事に役立っている

短大生活で最も思い出深いものはなんでしたか

W、S、RC造の軸部や骨組を、科のみんなで作った実習がおもしろかったですし、今でもその経験が仕事に役立っていると思います。

就職や資格取得がゴールではなくて、その先の目標をしっかり持つべきだ

短大に対するご意見、後輩たちへのアドバイスがありましたらお願いします

「就職や資格取得がゴールではなくて、その先の目標をしっかり持つべきだ」と、自分の経験を通して実感しています。

No. 42	出身校：N	科名：住居環境科	卒業年度：平成12年度
	性別：女	年齢：22歳	現住所：滋賀県
	業種：建設業		従業員数：10名

リフォームプランの提案や申請書類の作成などの仕事をしています

いま、どのような仕事をされていますか

また、どんな経験をされましたか

最近ではリフォーム工事が多く、リフォームプランの提案をして、図面やプレゼンテーション用の資料を作成し、現場に行き工事管理の仕事をしています。

現場の掃除や簡単な解体作業、職人さんの手伝いなどをして、木造住宅について勉強しています。最近では、リフォームの需要に伴い、リフォームプランの提案や申請書類の作成などの仕事をしています。

やれることを精一杯頑張ることで切り抜けたと思います。

仕事上、どんな壁にぶつかったことがありますか

また、どのようにその壁を切り抜けましたか

プランを作る時にアイデアが浮かばなかったり、構造上の不具合などが分からず苦労しています。そのような時は、上司に相談したり、メーカーの展示場などを見学に行ったり、友人にアイデアを求めたりします。

上司から「無理をせずできることをやればいい」と言われて、やれることを精一杯頑張ることで切り抜けたと思います。

最近では、建設の現場にも女性が増えてきて何よりもうれしい反面、まだまだ現場は男社会の感じが強く、私自身も作業をしていてそれを痛感することが多くありつらくなったこともあります。

将来どんな仕事上の目標をお持ちですか

もっと技能を高くしてたくさんの方の事を学び、独立してたくさんの方に喜んでもらえるような仕事がしたいです。

仕事に関する技術・技能・知識はどのようにして習得されましたか

現場で実際に家が建つ様子を見て作業することで、構造や施工法などを学んでいます。また、設計面では、二級建築士の資格を取得するためプランニングや図面の表現を学んでいます。

自然素材や自然を利用したものに興味があるので、その効果や活用の仕方などを学びたいです。

短大生活で最も思い出深いものはなんでしたか

卒業研究です。みんなで遅くまで残って大変だったけど、その分思い出深いものになりました。

実習ならば職人さんとふれあう機会などをもうけてみてはどうでしょう

短大に対するご意見、後輩たちへのアドバイスがありましたらお願いします

働きだして思うのですが、学校は大いに遊んで大いに学ぶところです。今になってもう少しきちんと授業を聞いて、自分の興味がどこにあるのか知る努力をしておけばよかったと思います。また、授業内容も、実習ならば職人さんとふれあう機会などをもうけてみてはどうでしょう。

No. 43	出身校：N	科名：住居環境科	卒業年度：平成11年度
	性別：女	年齢：22歳	現住所：滋賀県
	業種：建築設計監理		従業員数：2名

お客さんにも喜んでもらうことができ、とても達成感がありました

いま、どのような仕事をされていますか

また、どんな経験をされましたか

建築（住宅など）の計画、設計、建築確認業務等を行っています。

入社2年目ぐらいに、飲食店の内装模様替え工事の計画の一部をさせてもらえたことがありました。

施主の意向は、「20才代の会社勤めの女性受けするように」（場所がオフィス街のため）というものでした。

完成後にその店に行くことがあり、お客さんの反応を見ることができたのですが、施主さんにも、お店に来られるお客さんにも喜んでもらうことができ、とても達成感がありました。

言われていることがわからず、対応に困ることがありました

仕事上、どんな壁にぶつかったことがありますか

また、どのようにその壁を切り抜けましたか

今現在もよくあるのですが、実施設計図面を書く際、細かい部分の納まりや、材料名、製品名がわからないことがあります。

そのため、建築現場で現場監督の言われていることがわからず、対応に困ることがありました。

上司に質問したり、製品カタログを取り寄せたり、現場でわからなかったことは、監督や現場で作業されている職人さんに直接聞いたりしました。

苦手なことでもなんでも挑戦していこうと思っています

将来どんな目標をお持ちですか

もっとたくさんの建物を見たり、いろんな経験を重ね、その経験を生かして仕事がしたいと思います。

そのためには、苦手なことでもなんでも挑戦していこうと思っています。

ただ見るのではなく、良いと思ったものはどうよいか考えながら見た方がよい

仕事に関する技術・技能・知識はどのようにして習得されましたか

仕事で行き詰まった時に、上司に、「たくさんの建築物を見なさい。ただ見るのではなく、良いと思ったものはどうよいか考えながら見た方がよい」と言われました。

それからは、建築物以外でも、良いと思ったものはどのようなところが良いと思うのか考えるようにしています。

私は建築の構造に関することが苦手なので、講習会などがあれば、できるかぎり参加していきたいと思っています。

短大生活で最も思い出深いものはなんでしたか

やはり、大学生活で思い出深いものは、卒業研究です。

私は二人でやっていたのですが、いつも夜遅くまで学校に残っていました。

夜遅くまで残っていても、卒業研究をせずに友達と喋っていたこともありました。

学生生活で一番長く、充実した時間だったと思います。

短大に対するご意見、後輩たちへのアドバイスがありましたらお願いします

就職した今感じることは、もっと学生時代にいろんなことを学ぶべきだったと思います。

当時は、授業にしても課題にしても、こなすことで精一杯で、きちんと頭に入っていなかったように思います。

ゆっくり勉強する時間を与えてもらえるのは、学生時代の今だけだと思います。

がんばってください。

No. 44	出身校：B	卒業科：住居環境科	卒業年度：平成2年
	性別：男	年令：32歳	現住所：北海道
	業種：宅地建物取引業		従業員数：152名

いま、どのような仕事をされていますか

今まで、どんな仕事を経験されましたか

- * 住宅設計・設計管理・営業支援。
- * 支店管理業務・部下の指導育成。
- * 一般注文住宅の設計・施工管理。
- * 自社企画住宅の企画・設計。
- * 自社モデルハウスの設計・施工管理。
- * 営業支援・販売促進に関する業務。

仕事上、どんな壁にぶつかったことがありますか

- * 自己成長の度合いや、将来に関する不安等（世間との比較）。
- * 仕事・家庭・勉強（資格取得等）のペース配分や時間的悩み。

自身のスキルアップ（自分との戦い）

どのようにその壁を切り抜けましたか

- * 信頼・尊敬できる上司に相談。
- * ビジネス雑誌やTV等から、自分にとって役立つ情報を収集。
- * 自身のスキルアップ（自分との戦い）。

将来どんな目標をお持ちですか

- * 設計・施工管理（現状よりもう少し深く掘り下げて取り組みたい）。
- * 住宅業界の中での新ビジネス発掘。

今までどのような指導を受けてきましたか

また、後輩にはどのように指導していますか

- * 研修で学ぶことよりも、人（上司・先輩・お客様）から学ぶことが大きかった。
- * 仕事流れや知識より、「社会人として」、「設計者として」、「ビジネスマンとして」、「上司として」自分自

身がどうあるべきか、これから先何を考えて行かなければならないのか？等の話を、特に興味を持って語り合いました。

- * 後輩には、組織としての歯車のな仕事の教育では無く、これからの時代・市況に順応できる「人」として育つ様、接して行きたいと思います。

固定概念にとらわれる事無く、幅広い分野での情報収集や勉強がしたい

今後なにを学びたいですか

これからの住宅業界は、ニーズを捉えた中での「本物嗜好」や、サービス業的なソフト部分での充実が大切と考えます。ですから、今までの固定概念にとらわれる事無く、幅広い分野での情報収集や勉強がしたい。

短大生活で最も思い出深いものはなんでしたか

「友達」、「卒業研究」

卒業生を定期的に集めた多業種交流会（情報交換）の場を、設けてほしい

短大に対するご意見、後輩たちへのアドバイス、がありましたらお願いします

- * 学生のうちに少しでも早く、将来のビジョンを明確に持つ。
- * 多くの建築物を実際に見る、触れる。
- * 何か一つ自分の得意分野を持っておくよりベター
- * 卒業生を定期的に集めた多業種交流会（情報交換）の場を、設けてほしい。

<p>No. 45 出身校：Q 科名：インテリア科 性別：男 年齢：22歳 業種：総合建設業</p>	<p>卒業年度：平成13年度 現住所：広島県 従業員数：約35名</p>
--	--

人の接し方や言葉使いで苦勞しています

いま、どのような仕事をされていますか

また、どんな経験をされましたか

営業でアパートやマンション・一戸建住宅などを重点的に訪問し、リフォームや新築などの受注を取れるようにしています。

他には、地主様のお宅を訪問し、土地を貸してもらったり、売ってもらったりを交渉しています。

入社から8ヶ月ぐらいがたちましたが、営業に対する姿勢や行動を上司やセミナーなどで学び実践できるようになっています。

私の場合、初めから一人で外回りをしていたため独学でやっていくしかなかったため、人の接し方や言葉使いで苦勞しています。

訪問先の人に印象を聞いて帰るようにしています

仕事上、どんな壁にぶつかったことがありますか

また、どのようにその壁を切り抜けましたか

私は、人前に行くとき緊張してしまうため家のチャイムを鳴らすのもためらっていました。チャイムを鳴らして人がでてきても思ったように話ができないので、早く人に慣れるようにしています。

他には、契約がどうやったら取れるようになるかを考えています。

いまだに切り抜けられないのですが徐々に慣れていっています。なぜなら、嫌でも人と接しなければ仕事にならないからです。そのためには上司はもちろん同僚や親戚、訪問先の人にも印象を聞いて帰るようにしています。

将来どんな仕事上の目標をお持ちですか

社長のような営業力を持てるようになりたいと思っています。将来的には1件数億円～数十億円の仕事を取れるように自分を伸ばしていきたいです。

社会人としてのマナーや知識を教えてもらい、心構えができました

仕事に関する技術・技能・知識はどのようにして習得されましたか

セミナーでは社会人としてのマナーや知識を教えてもらい、心構えができました。

会社では必要な資格を取得できるように勉強しました。

後輩には指導が出来ないかもしれませんが、最低限のマナーや営業のやり方のきっかけを教えていきたいです。

今後なにを学びたいですか

私どもの会社は ISO9001 を取得していますが、私は内容をはっきりと理解できていません。そのため ISO の知識を深めて生きたいです。

他には、さらに営業に磨きをかけていきたいです。

自分の中の専門分野が広がりました

短大生活で最も思い出深いものは何でしたか

実習や卒業研究は大変思い出に残っています。自分の中の専門分野が広がりました。

後輩たちへのアドバイスをお願いします

学生時代に取れる資格は取っておいたほうが社会人になってとても便利です。(自分にとって不必要と思っても)

№. 46	出身校：Q	卒業科：インテリア科	卒業年度：平成12年度
	性別：男	年齢：22歳	現住所：広島県
	業種：総合建設業		従業員数：35名

いま、どのような仕事をされていますか

今まで、どんな仕事を経験されましたか

現在、現場監督をしています。現場の管理や作業指示をしています。

入社して3ヶ月は上司の下で雑用。3ヶ月目から上司の下で現場を持ちました。

自分が指示をしないと工事が進まないのに困りました

仕事上、どんな壁にぶつかったことがありますか

どのようにその壁を切り抜けましたか

3ヶ月目に現場を持ったときに、何も分からないのに自分が指示をしないと工事が進まないのに困りました。自分で勉強したり上司にいろいろ聞いたりして、その時その時を切り抜いています。

将来どんな仕事上の目標をお持ちですか

自分で会社を設立すること。

現場監督をするという事は大きな責任がある

今までどのような指導を受けてきましたか

また、なにを学びたいですか

現場監督をするという事は大きな責任があると言われました。今現在、建築の事もまだそれほど分かっていないので、もっとこの分野を勉強したいと思っています。

短大生活で最も思い出深いものはなんでしたか

卒業研究です。ものごとを全部自分で進めていかないと何も前に進まないので本気で取り組めた。

短大に対するご意見がありましたらお願いします

インテリア科がなくなったので卒業生としては寂しい思いをしています。

N o . 4 7	出身校：U	科名：造形デザイン科	卒業年度：平成元年度
	性別：女	年令：33歳	現住所：福岡県
	業種：店舗設計（自営）		

自営で頑張っています

いま、どのような仕事をされていますか

また、どんな仕事を経験されましたか

自営で、店舗内装の図面作成やトレース、CADのインストラクターをしています。

具体的には、店舗内装施工監理会社にて、営業補助として店舗設計一式、見積もり、プレゼン資料作成の仕事です。また、看板企画制作会社にて、サイン計画作成、ICプランニングなどです。

仕事上、どんな壁にぶつかったことがありますか

また、どのようにその壁を切り抜けましたか

仕事上の壁というと、人間関係のことしか思い浮かばない。

業務そのものについて、自分の力量不足のために仕事がうまく運ばないなどといった場合は、その不足して分をなんとかすることで対処できたので、特に苦労しなかった。

人間関係のこととなると自分の努力はあまり有効な解決策とはならなかったため苦労した。

私の場合、切り抜けたのではなく、陰で同僚や理解のある上司や友人にグチをこぼしてひたすら我慢した。それにも耐え切れなくなって会社を辞めたことがある。

自分のやりたいフィールドを見つけて、専門性を高めていきたい

将来どんな仕事上の目標をお持ちですか

自営を始めて2年半たったが、幸い今は、特別に営業活動をしなくても仕事の依頼がある。一方、今ほどにかくどんな仕事でも依頼があればやっている状態なので、ゆくゆく、私を信用して仕事を下さるお客様を大事にしつつ、自分のやりたいフィールドを見つけて、専門性を高めていきたい。

仕事の能力があればあるほど、礼儀と愛想を忘れないように

今まで何を学んできましたか

また、後輩にはどのように指導していますか

今まで経験してきた会社すべて、特にこれといった教育の体制はなかったが、お客様や営業マンからの要望や、プランの欠点を指摘されたり、叱られたりして、精神的に痛い思いをしたことが成長につながっていったと思う。

技術的なことは、最初に入った会社では、ポスト的に自分の先輩にあたる人がいなかったので営業マンや現場管理の人にしつこくいろいろ尋ねた。場合によっては現場も見せてもらった。

資格取得については、インテリアコーディネーターの資格を、週2回退社後に講座に通い2年がかりで合格した。試験直前はほとんど眠っていないので、仕事が見つかった。

後輩には、仕事の能力が足りない分は礼儀とか愛想でカバーするように言っている。

また、仕事の能力があればあるほど、礼儀と愛想を忘れないように。

今後なにを学びたいですか

CADソフトも年々進化するし、ハードもどんどん新しいのができるので、遅れないように習得していきたい。

図書室の蔵書が高校より少なかったのに啞然

短大生活で最も思い出深いものは何でしたか

最寄駅から学校まで、徒歩でかなりあり、しかも課題などで夜遅くなると外灯のない寂しい道を歩いて帰らなければならなかったのがつらかった。

在学当時は学校設立2年目で学園祭もなく、サークルもほとんどなかったのが寂しかった。それで2年生の時、自分で第1回目の学園祭をやりました。

図書室の蔵書が高校より少なかったのに啞然とした。

在学中に業界地図を自分なりに把握できるよう、情報収集しておくとうい

短大に対するご意見、後輩たちへのアドバイスがありましたらお願いします

図書館を充実してあげてください。市内で一番大きい書店にいても、専門分野の本はあまりないので。

後輩に向けて。一口に『建築業界』『建設業界』といっても、会社によって業務内容がぜんぜん違うので、在学中に業界地図を自分なりに把握できるよう、ヒアリングなどして情報収集しておくとういと思う。その中で、自分の特性や好きな方向を見定めていって欲しい。

勉強も大事だけど、関係のある業界でアルバイトをすると、今やってる勉強の意味とか、上記のような業界地図とか、いろんなことがわかって、大変いいのではないかと思う。

社会に出てお金が絡んだ関係になると腹を割って話せる友人というのはなかなか出来にくいので、同じ科の

友達を大事にするという。専門的な相談となると話が通じる相手でないと言情説明だけで疲れてしまいます。

№. 48	出身校：U	科名：造形デザイン科	卒業年度：平成3年度
	性別：男	年齢：31歳	現住所：福岡県
	業種：グラフィックデザイン全般		従業員数：3名

いま、どのような仕事をされていますか

また、どんな仕事をしてきましたか

グラフィックデザイナーです。具体的には、ポスター・パンフレット・チラシ・パッケージ・サインのデザインやイベントの企画書作成などを行っています。

クライアントは他業種の方です。時期によって偏りはありますが、いろいろなデザインをしています。

- ・イベントの告知ポスター。
- ・マンションや戸建てメーカーの販促キャンペーンパンフレットやチラシの制作。
- ・食べ物の新商品パッケージ。
- ・道路サインの図案展開等。

新しくクオリティの高いデザインを求められます

仕事上、どんな壁にぶつかったことがありますか

納期まで時間が少ない仕事はよくあります。通常幾つか仕事を掛け持ちしていますので、ボリュームのある仕事の納期が重なるとかなり焦ります。前はよくパニックっていました。そんな中でもクライアントからは、新しくクオリティの高いデザインを求められます。

イベントや販促キャンペーンにおけるポスターは、イメージ優先なので大まかな内容打ち合わせ後、ビジュアルをまかされ自分なりに具現化していけます。しかし、クライアントに納得していただくには、複数のデザインを提案し、そこから煮つめていく産みの苦しみが待っています。

また、パンフレットやチラシといったものは、クライアントから提供される原稿以外に新たに収集しなければならない情報が大半で、掲載内容が固まっていなかった場合も多く、納期との兼ね合いがより困難になります。

フラットな状態から発想できる精神的な強さも必要だと感じています

どのようにその壁を切り抜けましたか

クライアントをはじめ、社内外のスタッフなど多くの人たちが関わることなので、なかなか思い通りにはいきませんが、納期から逆算したスケジュール表を作成し、自分もしくは自分寄りの人がなるべくイニシアティブを取れるようにもっていきます。どのタイミングで何をしなければならないかということが相互に確認できますし、助け合いにもつながります。

個人的には、瞬発的にデザインをイメージできるよう、アイデアストックを心掛けています。困難な時でもフラットな状態から発想できる精神的な強さも必要だと感じています。

“ハマる”部分を見い出して、自分なりに楽しみたい。

将来どんな目標をお持ちですか

はじめて取り組む仕事は難しくとっつきにくかったり、馴れた仕事は新鮮味がなくなったりします。視野を広げその中からグッと集中すべきポイントを見定めメリハリを付けるようにしています。

どんな仕事でも“ハマる”部分を見い出して、自分なりに楽しんでいきたいと思います。

グラフィックデザイナーは、独立を目指す人が多いです。私もデザインはもちろん、ディレクションさらにはマネジメントといった能力を身に付けたいと考えています。

人を意識すること、人を大事にすること。

今までどのような指導を受けてきましたか

私自身が先輩から意識を促されていることは、「まずは、人を意識すること、人を大事にすること。デザイン業務においては、クライアントの求めているものを理解し、デザインすること。さらに理解した上、“良い意味でクライアントを裏切る……そこまでやるかという……デザイン”を提案できる遊び心を持つこと。」

私から後輩に伝えたいこと、「自分が手がけた部分が全体のほんの一部分であっても、その仕事の流れ、最終的な結果を見届けること。視野を広げることで、気の利いた仕事やデザインにつながります。」

今後なにを学びたいですか

デザインと一口に言っても多種多様です。可能なものはいろいろやりたいです。不得意分野でも、その道のスペシャリストと連携できれば理想的です。我々は Mac が主流ですが、パソコンソフトをさらに使いこなし、バージョンアップにも速やかに対応していきたいですね。

短大生活で最も思い出深いものはなんでしたか

短大生のわりには、アルバイトをよくしていました。課題提出期限の前日は、毎回大変な思いをしました。親元を離れての生活だったので、その点においても社会に出る前のいい準備期間でした。

見て、聞いて、触れて、体感して、自分自身で決めたことが後々生きてきます

短大に対するご意見、後輩たちへのアドバイスがありましたらお願いします

在学中は大変お世話になりました。また卒業後も、パソコンの能力開発セミナーなどで利用させていただいております。

私の勤めている事務所にも、時々大学生や短大生、専門学校生が見学に来られます。彼らと話して感じたことですが、ポリテクカレッジで行っていた企業実習は、効果的で恵まれています。この企業実習のチャンスを生かすとよいです。

さらに自分自身で独自の企業実習的な活動ができれば、なおいいですね。会社や仕事というのは企業実習をやる前とやってみた上での印象は違ってきます。見て、聞いて、触れて、体感して、自分自身で決めたことが、後々生きてきます。

デザインのなことというと、感性や技術は、徐々に磨いていくものだと思います。作品に取り組む際は常にコンセプトを意識してください。なぜそうしたのか……。どこが好きなのか……。

ほめられることより、求められることが何倍も多いですが、やり遂げる自分をイメージできれば、きっと楽しい仕事になると思います。

№. 49	出身校：A	科名：環境科学科	卒業年度：平成12年度
	性別：女	年齢：22歳	現住所：東京都
	業種：タイヤ開発、製造勤務先		

徐々に自分にできる分析項目を増やしています

いま、どのような仕事をされていますか

また、どんな経験をされましたか

タイヤの製品分析をしています。開発者が開発した製品を分析して、従来の製品からどのように改良されたのかを調べます。市場でのトラブルやクレーム等のあった製品分析もまれにあります。どちらも、開発側からの依頼分析です。

入社以来、製品分析を担当していますが、先輩社員から指導頂き、徐々に自分にできる分析項目を増やしています。

仕事上、どんな壁にぶつかったことがありますか

また、どのようにその壁を切り抜けましたか

入社当初、慣れを必要とする分析項目について、まず指導して頂きました。

はじめのうちは、もちろん、練習でですが、データが安定せず心配しました。

先輩社員のアドバイスを実践し、とにかく練習しました。

将来どんな仕事上の目標をお持ちですか

彼女のデータならば、と信頼される分析者になりたいです。

分析依頼者の目的・背景を十分に理解する

今までどのような指導を受けてきましたか

また、なにを学びたいですか

分析の作業、機械の取扱等については先輩社員が直々に指導下さいます。安全についてはミーティングで話し合います。

現在は危険物取扱者甲種の資格取得に向けて勉強中です。

分析依頼者の目的・背景を十分に理解するためにも、タイヤ技術の知識を少しずつでも増やしたいです。

短大生活で最も思い出深いものはなんでしたか

卒業研究です。内容が楽しかったのもさることながら、時間ごとの、サンプリング→測定→観察→考察 という作業は、自分にとても合っていました。

健康管理には、気をつけましょう

短大に対するご意見、後輩たちへのアドバイスがありましたらお願いします。

私は学生のころから運動不足でしたが、会社に入ると特に、運動不足になります。

後輩達へのアドバイスは、職業にもよるかも知れませんが、健康管理には、気をつけましょうということです。

No. 50	出身校：A	科名：環境科学科	卒業年度：昭和53年度
	性別 男	年齢：46歳	現住所：千葉県
	業種：下水道処理施設維持管理業		従業員数：210名

いま、どのような仕事をされていますか

また、どんな経験をされましたか

流域下水道の終末処理場において、水処理施設の維持管理をしています。

具体的には、水質分析、オペレーション、保守点検が主で、そのまとめ役を行っています。

当初は、工場廃水処理施設等のメンテナンス業務に従事しました。その後、し尿処理施設の試運転を担当した後、現在の下水処理場の維持管理をしています。

最近は、技術的な仕事が少なくなり、人事面の管理が主な仕事となっています。

コミュニケーションをしっかりと行うことが、一番大切である

仕事上、どんな壁にぶつかったことがありますか

また、どのようにその壁を切り抜けましたか

人を使う立場となって、年上の人をうまく使いきれなかったことや、部下に対してやる気を起こさせる環境作りができなかったことがあります。

コミュニケーションをしっかりと行うことが、一番大切であると痛感しました。いろいろな方と話すことで、具体的な対策を考えることができました。

将来どんな仕事上の目標をお持ちですか

当業界は、仕事の内容が仕様書に明記してあり、これを遵守しなくてはなりません。しかし、時代の流れで、性能発注の考え方になりつつあり、ここでは、コスト、水質、環境などを独自の特長を出すことによって仕事を受注する形態になるため、これに取り組んで会社を大きくしていきたいと思います。

社会人として、きちんとしたルールを指導していきたい

今までどのような研修を受けてきましたか

また、後輩にはどのように指導していますか。

技術的な分野は、関係機関の講習会がたいへん役立ち、知識を身につけることができました。

職場で今、不安な点として、社会人としてのルールを知らない若い人が多くいることです。後輩には社会人として、きちんとしたルールを指導していきたいと思っています。

今後なにを学びたいですか

当社も品質マネジメントシステム ISO9000 を取得しましたが、今後、上下水道サービスについて、国際規格が出来るようなので、この辺を勉強したいと思います。

短大生活で最も思い出深いものはなんでしたか

一泊二日で秋川で行った集中実習がよい思い出となりました。